

小山市経済動向実態調査

(令和4年度最終報告書)

令和5年3月

小山市産業観光部商業観光課委託

白鷗大学ビジネス開発研究所

小山市経済動向実態調査

(令和 4 年度最終報告書)

目次

要旨	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象・調査内容	3
2.1. 調査対象	3
2.2. 調査内容	6
3. 調査結果	7
3.1. 全般的な小山市の景気	7
3.2. 小山市における業界の景気	13
3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問	27
4. 小山市経済動向ヒアリング調査	36
5. まとめ	51
(参考資料)	53
i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和 4 年度第 2 回)	53
ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和 4 年度第 2 回)の回答一覧	58
iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)	80

小山市経済動向実態調査プロジェクトメンバー

白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	西谷 勢至子
白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	高木 孝紀
白鷗大学経営学部講師・ビジネス開発研究所運営委員	八尾 政行
白鷗大学総合研究所担当職員	櫻庭 律子
(協力)白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究所所長	小笠原 伸

小山市経済動向実態調査

(令和 4 年度最終報告書)

令和 5 年 3 月
白鷗大学ビジネス開発研究所

白鷗大学ビジネス開発研究所では、小山市産業観光部商業観光課からの委託を受けて小山市の消費面を中心とした経済動向を把握するため、平成 14 年度以降、小山市経済動向実態調査を実施している。令和 4 年度小山市経済動向実態調査では、小山市景気動向アンケート調査(6 月と 12 月)とヒアリング調査(2 月)を実施した。本報告書は令和 4 年度小山市景気動向アンケート調査(第 2 回)の調査結果およびヒアリング調査をまとめた令和 4 年度小山市経済動向実態調査の最終報告書である。

要旨

令和 4 年 11 月から 12 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 4 年度第 2 回)」の結果をみると、令和 4 年下半年(7~12 月期)の小山市の全般的な景況感は、前回調査(令和 4 年上半年(1~6 月期)から「やや良い」の割合が上昇する一方で、「やや悪い」の割合も大きく上昇したことから、企業・店舗により結果が分かれた。景気動向指数(DI)でみると、景況感は回復傾向にあることが示されているが、8 期連続で 50%を下回っており、依然として厳しい景況感の表れとなった。その理由としては、「お客様や取引先の様子」、「物価の動き」、「小山市の人出の状況」、「雇用の状況」といったものが上位に挙げられていた。

小山市の景気見通しに関して、前回の調査と比べ、「やや良くなる」、「やや悪くなる」の割合が上昇し、「変わらない」の割合が下落し、DI でみると 47.0%と前回(47.4%)からほぼ横ばいであった。

業界の小山市での売上金額についての回答についてみると、令和 4 年下半年(7~12 月期)は「変わらない」の割合が上昇し、「増加した」、「やや減少した」の割合が下落した。DI でみると 48.5%と前回(48.0%)とほぼ変わらない水準だった。売上見通しについては、「やや増加する」、「やや減少する」の割合が上昇し、「減少する」の割合が下落した。DI でみると 50.0%と前回(48.6%)とやや上昇傾向にある。

販売価格見通しについて、令和 5 年上半年(1~6 月期)は令和 4 年下半年(7~12 月期)と比べ、「変わらない」の割合が上昇し、「上昇する」の割合が下落した。DI でみると 57.6%と、前回(58.8%)、前々回(59.2%)から下落傾向にあるものの、調査開始以来 4 番目に高い水準となった。この結果はこの数年継続している全国的な物価上昇の傾向が反映されたものであると考えられる。雇用見通しについては、令和 5 年上半年(1~6 月期)は令和 4 年下半年(7~12 月期)と比べ、「不足する」、「やや不足する」の割合が上昇し、「横ばい」の割合が下落した。DI でみると、63.3%と、前回(58.3%)、前々回(57.7%)から上昇し、4 期連続で 50%を上回り、調査開始以来 2 番目に高い水

準となった。2020年からの新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)のもとで、人手不足は一時落ち着く傾向にあったものの、社会、経済がコロナ禍から回復を目指す中で、人手不足が再び経営課題として浮上していると考えられる。資金繰りの状況に関して、令和4年下半期(7~12月期)は、「やや改善した」の割合が上昇し、「改善した」、「悪化した」の割合が下落した。DIで見ると、47.7%と、前回(44.1%)から上昇したものの2期連続50%を下回った。賃金等の状況について、前回調査と比べ、「ベースアップを実施」、「その他」の割合が上昇し、「定期昇給を実施」の割合が下落した。回答理由を見ると、人手不足を背景に、人材を確保するために賃金を上昇させるという回答が見られた。

今回のアンケート調査では、前回調査に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関する質問と2022年10月に行われた、いちご一会とちぎ国体(第77回国民体育大会)および、いちご一会とちぎ大会(第22回障害者スポーツ大会)の売上げへの影響に関する質問を追加で行った。

まず、コロナ禍に関する質問では、コロナ以前とアンケート対象期間の状況の比較を、供給面、営業・勤務形態等、需要面に分けてたずねた。その結果をみると、依然としてコロナ禍の負の影響を受けている様子が見られた。特に、供給面において「コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ」との回答の割合が上昇している。これは、2022年の12月まで中国のゼロコロナ政策によって行動制限が行われていた点や、2022年2月から続くロシアによるウクライナ侵攻により、国際的なサプライチェーンの混乱の影響も考えられるだろう。

いちご一会とちぎ国体といちご一会とちぎ大会の売上げへの影響に関する質問の結果を見ると、「増加した」と「やや増加した」の割合の合計が15.2%であり、「やや減少した」、「減少した」の割合の合計は0%であった。一部の業界、企業に対してではあるものの売上げに対しプラスの影響が観察された。

ヒアリング調査(聞き取り調査)は、2023年2月に対面と書面で行った。その結果を見ると、景気の現状について、業種や企業・店舗により見解が分かれる結果となった。その理由として、コロナ禍と物価上昇が多く挙げられていた。コロナ禍については、その影響をどの程度受けているかによって回答が分かれる傾向にあった。物価については、価格転嫁を課題に挙げる声が多く聞かれた。景気見通しについては、特に、2023年5月に新型コロナウイルス感染症法上の分類が、重症化リスクや感染力が高い「2類」相当から、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に引き下げられることが景気回復につながることを期待する声があった。近年、物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関しては、多くの業種・企業が何らかの形で賃上げを検討しているとの回答が得られた。

1. 調査の目的

小山市景気動向アンケート調査は、小山市の景気動向を把握するため、小山市の流通業、サービス業、製造業などの企業、店舗に対して小山市の景況、各業界の業況等をアンケート形式で調査したものである。

2. 調査対象・調査内容

2.1.調査対象

令和4年11月から12月にかけて、小山市内の企業120社程度を対象に小山市の景気動向に関するアンケート調査を行い、33社から回答を得た。回収率は約27.5%である。

図表 2-1 回答企業の業種別構成

業種	社数(社)	
	今回	前回
流通業(小売業)	9	8
製造業	5	8
金融・保険業	3	4
運輸業	3	3
ホテル・旅館業	1	1
飲食業	1	1
通信・放送業	1	0
不動産・住宅業	3	1
サービス業	3	1
印刷業	0	0
その他・不明	4	11
合計	33	38

(注) 前回は令和4年6月調査、業種を複数選択した企業、選択肢外の業種を回答した企業はその他・不明に分類した。

前回調査(令和4年6月)に比べ

- ・ 増加した業種: 流通業、通信・放送業、不動産・住宅業、サービス業
- ・ 減少した業種: 製造業、金融・保険業、その他・不明

図表 2-2 回答企業の従業者数

従業員数 (人)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
1~4	5	15.2	15.8	15.4
5~9	4	12.1	13.2	23.1
10~19	6	18.2	13.2	12.8
20~29	2	6.1	10.5	7.7
30~49	5	15.2	7.9	7.7
50~99	6	18.2	15.8	15.4
100以上	5	15.2	13.2	12.8
不明	0	0.0	10.5	5.1
合計	33	100.0	100.1	100.0

(注) 前回は令和4年6月調査、前々回は令和3年12月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

前回調査(令和4年6月)に比べ

- ・ 構成比が2%ポイント以上上昇した従業者規模: 10~19人、30~49人、50~99人、100人以上
- ・ 構成比が2%ポイント以上減少した従業者規模: 20~29人、不明

図表 2-3 回答企業の売上高

売上高 (円)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
3,000万未満	5	15.2	15.8	15.4
3,000万~1億未満	3	9.1	10.5	7.7
1億~5億未満	10	30.3	23.7	33.3
5億~10億未満	3	9.1	7.9	10.3
10億以上	8	24.2	18.4	17.9
不明・該当なし	4	12.1	23.7	15.4
合計	33	100.0	100.0	100.0

(注) 前回は令和4年6月調査、前々回は令和3年12月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

前回調査(令和4年6月)に比べ

- ・ 構成比が2%ポイント以上上昇した年間売上高規模: 1億~5億未満、10億以上
- ・ 構成比が2%ポイント以上低下した年間売上高規模: 不明・該当なし

図表 2-4 回答企業における売上割合

小山市内の売上割合 (%)	企業数 (社)	構成比 (%)		
		今回	前回	前々回
80~100	11	33.3	21.1	28.2
60~79	9	27.3	21.1	23.1
40~59	3	9.1	10.5	7.7
20~39	4	12.1	10.5	12.8
0~19	6	18.2	26.3	23.1
不明・該当なし	0	0.0	10.5	5.1
合計	33	100.0	100.0	100.0

(注) 前回は令和4年6月調査、前々回は令和3年12月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても100%にならないことがある。

小山市内の売上割合が60%以上の企業数の合計は20社(60.6%)となった(前回調査: 42.2%)。

2.2. 調査内容

今回の調査内容は、質問 1 から質問 14 までは、従来の調査と同様に、景況感に関わる項目である。そのうち、質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気の現状および先行きに関してたずね、質問 5 から質問 14 までは、回答企業自身についての現状および先行きに関してたずねている。質問 15、16 は新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)、質問 17 は 2022 年秋に実施された、いちご一会とちぎ国体(第 77 回国民体育大会、10 月 1-11 日)および、いちご一会とちぎ大会(第 22 回障害者スポーツ大会、10 月 29-31 日)に関する質問事項となっている。

質問 1：小山市の景気の現状(水準)

質問 2-1: 質問 1 の回答理由

質問 2-2: 質問 2-1 の回答理由

質問 3: 令和 5 年上半期(1~6 月期) の小山市の景気見通し

質問 4: 質問 3 の回答理由

質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)

質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)

質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)

質問 7: 業界の小山市での売上見通し

質問 8: 質問 7 の回答理由

質問 9: 令和 5 年上半期(1~6 月期) の販売価格見通し

質問 10: 令和 5 年上半期(1~6 月期) の雇用見通し

質問 11: 令和 4 年下半期(7~12 月期) の資金繰りの状況

質問 12: 質問 11 の回答理由

質問 13: 令和 4 年度の賃金等の状況

質問 14: 質問 13 の回答理由

質問 15-1: コロナ禍の影響(供給面)

質問 15-2: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)

質問 15-3: コロナ禍の影響(需要面)

質問 16: 質問 15 の回答理由

質問 17: いちご一会とちぎ国体および、いちご一会とちぎ大会の売上げへの影響

3. 調査結果

3.1. 全般的な小山市の景気

質問 1 から質問 4 までは、全般的な小山市の景気についてたずねた。以下その結果を述べる。

3.1.1. 小山市の景気の現状(水準)(質問 1, 2-1, 2-2)

質問 1 では全般的な小山市の景気の現状(水準)をたずねた。令和 4 年下半期(7~12 月期)は「良い」3.0%、「やや良い」24.2%、「どちらともいえない」42.4%、「やや悪い」24.2%、「悪い」6.1%となった。前回と比べ「やや良い」、「やや悪い」の割合が上昇し、「どちらともいえない」、「悪い」の割合が下落した。前回調査(令和 4 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや良い」(+13.7)、「やや悪い」(+5.8)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「どちらともいえない」(-10.2)、「悪い」(-7.1)

となった。DI¹で見ると 48.5%と前回(44.1%)、前々回(37.2%)から上昇傾向にあるものの、8 期連続で 50%を下回った(図表 3-1,3-2)。

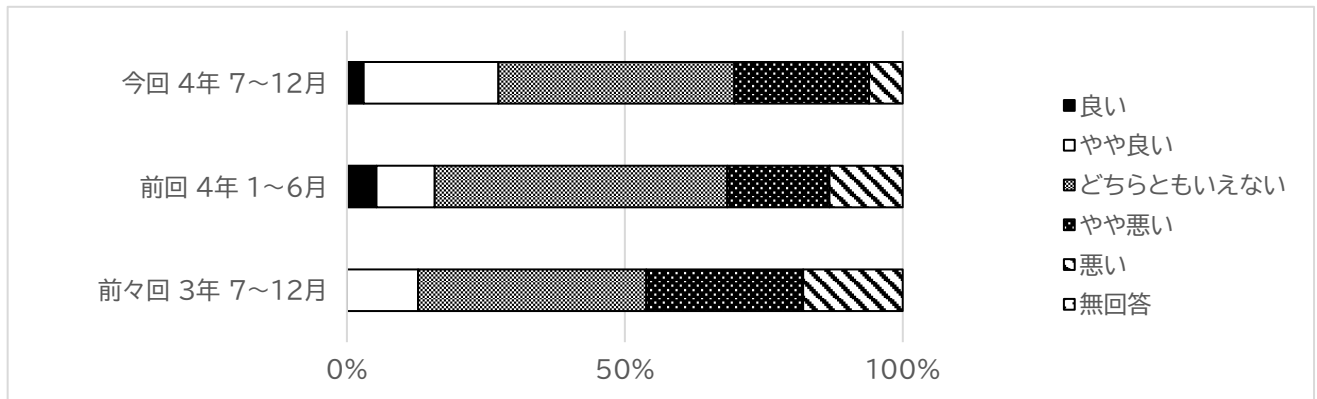
質問 1 の回答理由(質問 2-1)についてみると、「お客様や取引先の様子」(63.6%)、「物価の動き」(18.2%)、「雇用の状況」(12.1%)が上位三位までの理由だった(図表 3-3)。特に「物価の動き」について、前回、前々回から割合の上昇が続いている。

質問 2-1 の具体的な回答内容(質問 2-2)では、取引の増加や人手不足といった景気の回復傾向がみられる一方で、人出の少なさや物価への懸念が挙げられていた。

¹ DI (Diffusion Index)とは、景気動向指数の一つであり、回答(%)の「良い」を 1、「やや良い」を 0.75、「どちらともいえない」を 0.5、「やや悪い」を 0.25、「悪い」を 0 として、構成比(無回答を除く)で加重平均したものである。DI が 50%を超えると景気回復、50%を下回ると景気悪化を示唆している。

質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

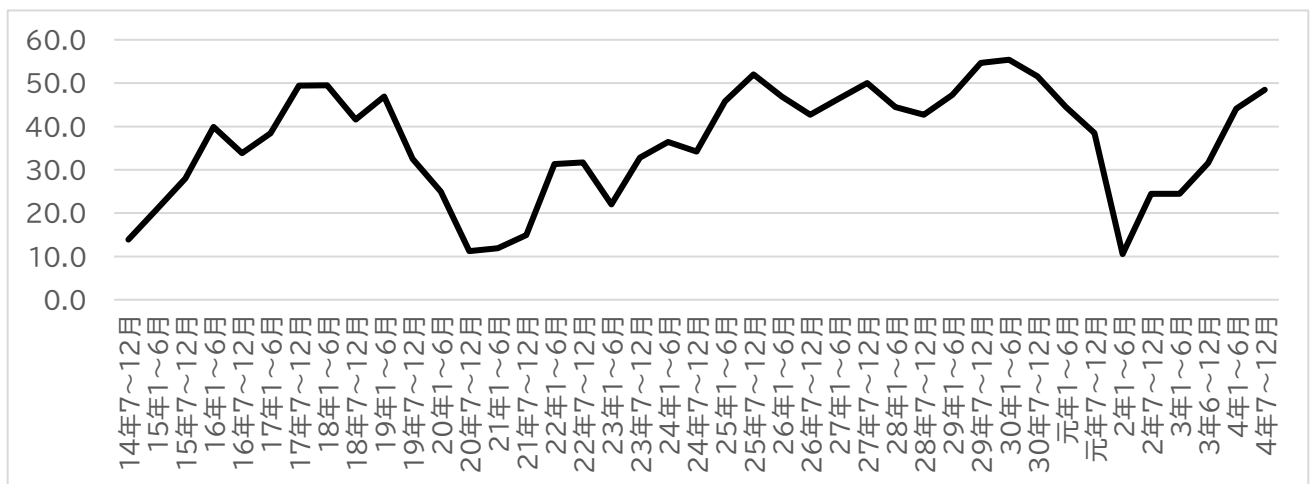
図表 3-1 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

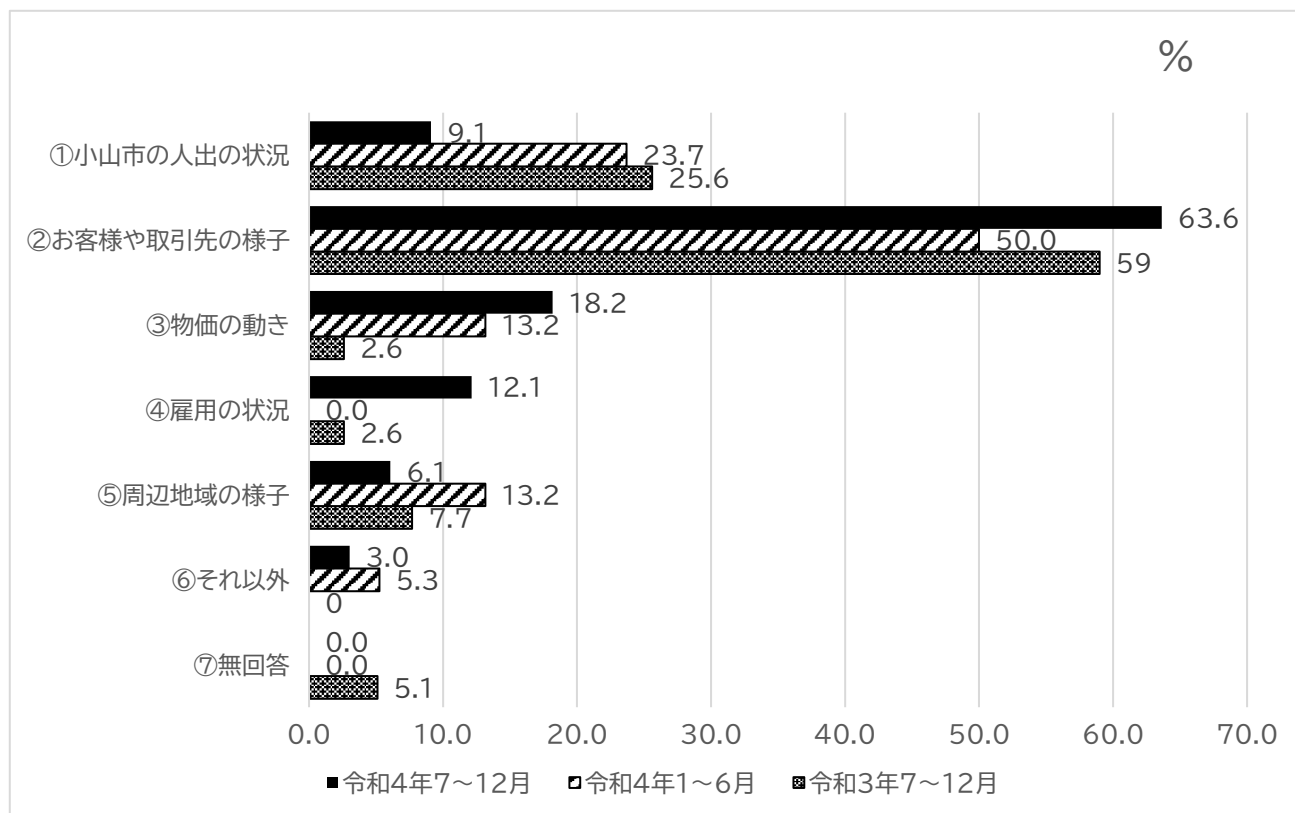
	良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回 4年 7~12月	3.0	24.2	42.4	24.2	6.1	0.0	48.5
前回 4年 1~6月	5.3	10.5	52.6	18.4	13.2	0.0	44.1
前々回 3年 7~12月	0.0	12.8	41.0	28.2	17.9	0.0	37.2

図表 3-2 DIの推移(%)



質問 2-1: 質問 1 の回答理由

図表 3-3 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

質問 2-1	①小山市の人出の状況	②お客様や取引先の様子	③物価の動き	④雇用の状況	⑤周辺地域の様子	⑥それ以外	無回答
良い	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや良い	0.0	15.2	0.0	6.1	3.0	0.0	0.0
どちらともいえない	9.1	15.2	15.2	3.0	0.0	3.0	0.0
やや悪い	0.0	24.2	3.0	3.0	3.0	0.0	0.0
悪い	0.0	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	9.1	63.6	18.2	12.1	6.1	3.0	0.0

(注) 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 2-2: 質問 2-1 の具体的な回答内容

- ◆ 良い
 - ・ 「例年より取引件数が多かった」(②お客様や取引先の様子)
- ◆ やや良い
 - ・ 「運搬する品物(機械材料など)が増えた」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「正社員や派遣社員を募集しているが、なかなか集まらない。」(④雇用の状況)
 - ・ 「中古車・建機関係の動きから」(⑤周辺地域の様子)
- ◆ どちらともいえない
 - ・ 「小山市の人出の状況」(①乗客の動きの波が大きい)
 - ・ 「忘年会などの宴会予約の状況が昨年と同じく伸び悩んでいる。」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「円安、原油高、生活に関わるあらゆる物の価格高騰によるため」(③物価の動き)
- ◆ やや悪い:
 - ・ 「お客様の動きが悪い」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「利用料の見直し(削減)に関する問い合わせの増加」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「設備投資の話が少ない」(②お客様や取引先の様子、③物価の動き)
- ◆ 悪い:
 - ・ 「顧客先の引き合いや動き、仕事の見通しが悪い」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「人出が少ない」(②お客様や取引先の様子)など

3.1.2. 令和5年上半期(1～6月期)の小山市の景気見通し(質問3,4)

質問3の小山市の景気見通しに関して、令和5年上半期(1～6月期)は令和4年下半期(7～12月期)と比べ、「良くなる」0.0%、「やや良くなる」21.2%、「変わらない」48.5%、「やや悪くなる」27.3%、「悪くなる」3.0%となった(図表3-4, 3-5)。前回と比べ「やや良くなる」、「やや悪くなる」の割合が上昇した。一方で、「変わらない」の割合は下落した。前回調査(令和4年6月)と比べ、

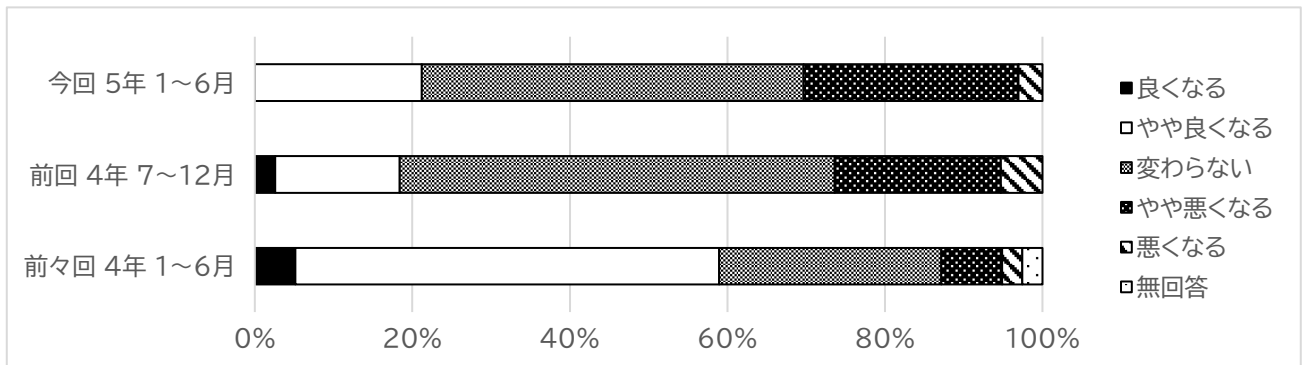
- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや良くなる」(+5.4)、「やや悪くなる」(+6.2)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-6.8)

となった。DIで見ると47.0%と前回(47.4%)からほぼ横ばいであり、2期連続で50%を下回った。

質問3の回答理由(質問4)では、新型コロナウイルスの感染者が減少するという見通しがある一方で、物価の上昇や、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化が懸念されていた。

質問3: 令和4年上半期(1～6月期)の小山市の景気見通し

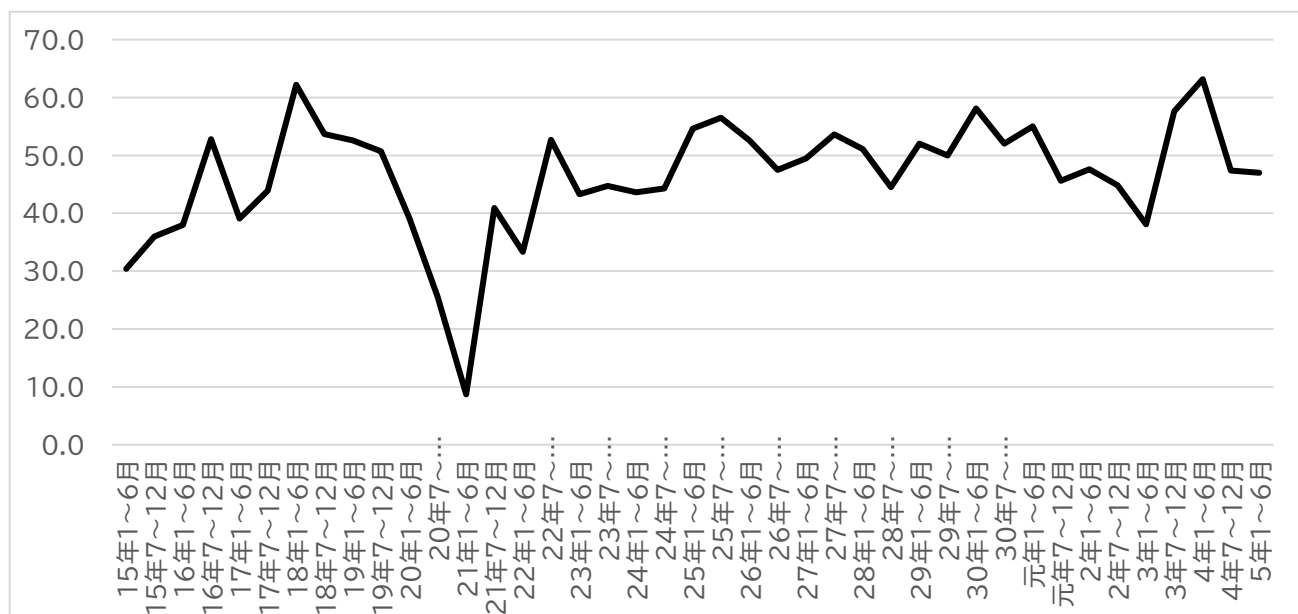
図表 3-4 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回 5年 1～6月	0.0	21.2	48.5	27.3	3.0	0.0	47.0
前回 4年 7～12月	2.6	15.8	55.3	21.1	5.3	0.0	47.4
前々回 4年 1～6月	5.1	53.8	28.2	7.7	2.6	2.6	63.2

図表 3-5 DI の推移(%)



質問 4: 質問 3 の回答理由

- ◆ やや良くなる
 - ・ 「コロナ感染者が減少するものと予想している。」
 - ・ 「多少なりともよくなる。新型コロナ感染症による行動制限の緩和」
- ◆ 変わらない
 - ・ 「コロナ感染が長引き、購買意欲が上がらない」
 - ・ 「ロシアによるウクライナ侵攻の長期化による物価の高騰が続く」
- ◆ やや悪くなる
 - ・ 「エネルギーコスト(主に電気)が増大した。」
 - ・ 「増税の話が出てきている為」
- ◆ 悪くなる
 - ・ 「物価の上昇が続くのではないかと思います。それに伴い、車両販売の伸び悩みなどが懸念されるため。」
 - など

3.2. 小山市における業界の景気

質問 5 から質問 14 までは、小山市における回答企業・店舗の業界景気動向をたずねた。以下その結果を述べる。

3.2.1. 業界の小山市での売上げ(質問 5, 6-1, 6-2)

業界の小山市での売上げについて、令和 4 年下半期(7~12 月期)は「増加した」0.0%、「やや増加した」30.3%、「変わらない」39.4%、「やや減少した」24.2%、「減少した」6.1%となった(図表 3-6, 3-7)。前回と比べ「やや増加した」の割合が上昇し、「増加した」、「やや減少した」の割合が下落した。前回調査(令和 4 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや増加した」(+14.5)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「増加した」(-7.9)、「やや減少した」(-4.7)

となった。DI でみると 48.5%と前回(48.0%)から横ばいであり、8 期連続で 50%を下回った。

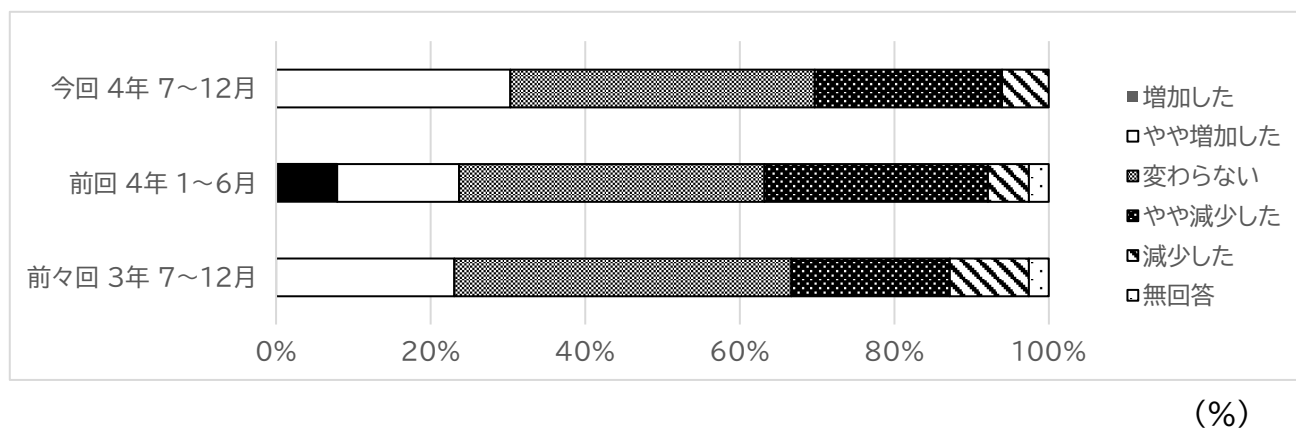
質問 5 の回答の理由(質問 6-1)についてみると、家計向け取引の場合、「無回答」を除いて、「来客数の動き」(33.3%)、「お客様の様子」(27.3%)、「販売量の動き」(18.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-8)。

企業向け取引の場合、「無回答」を除いて、「受注量や販売量の動き」(39.4%)、「取引先の様子」(24.2%)、「受注価格や販売価格の動き」(12.1%)が上位三位までの理由だった(図表 3-9)。

質問 6-1 の具体的な回答内容(質問 6-2)では家計向け取引、企業向け取引のいずれでも、物価上昇の影響が顕著にみられた。一方で、近年の調査では多く見られていた新型コロナウイルス感染症の流行に関する回答が減少していた。

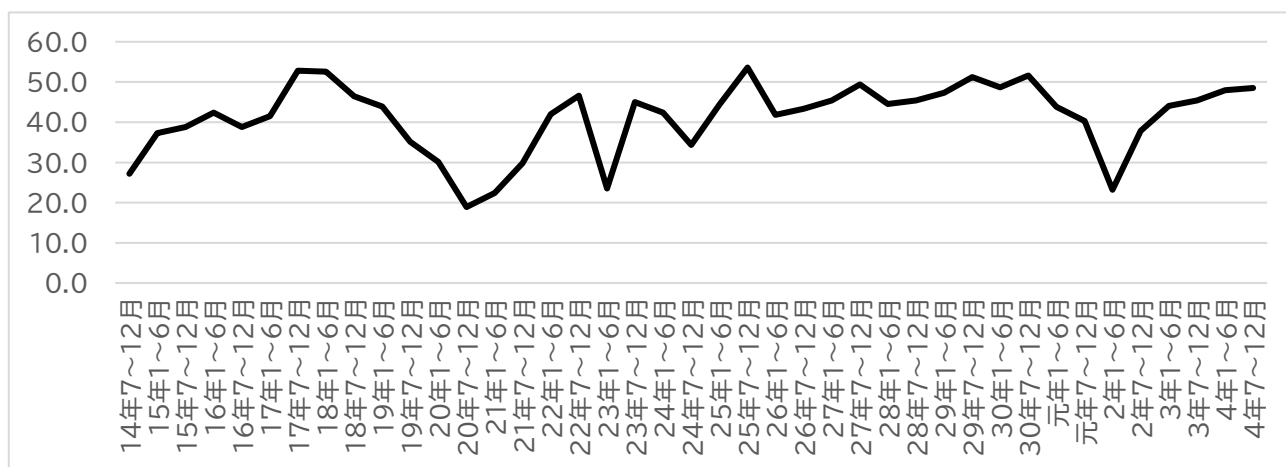
質問 5: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

図表 3-6 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



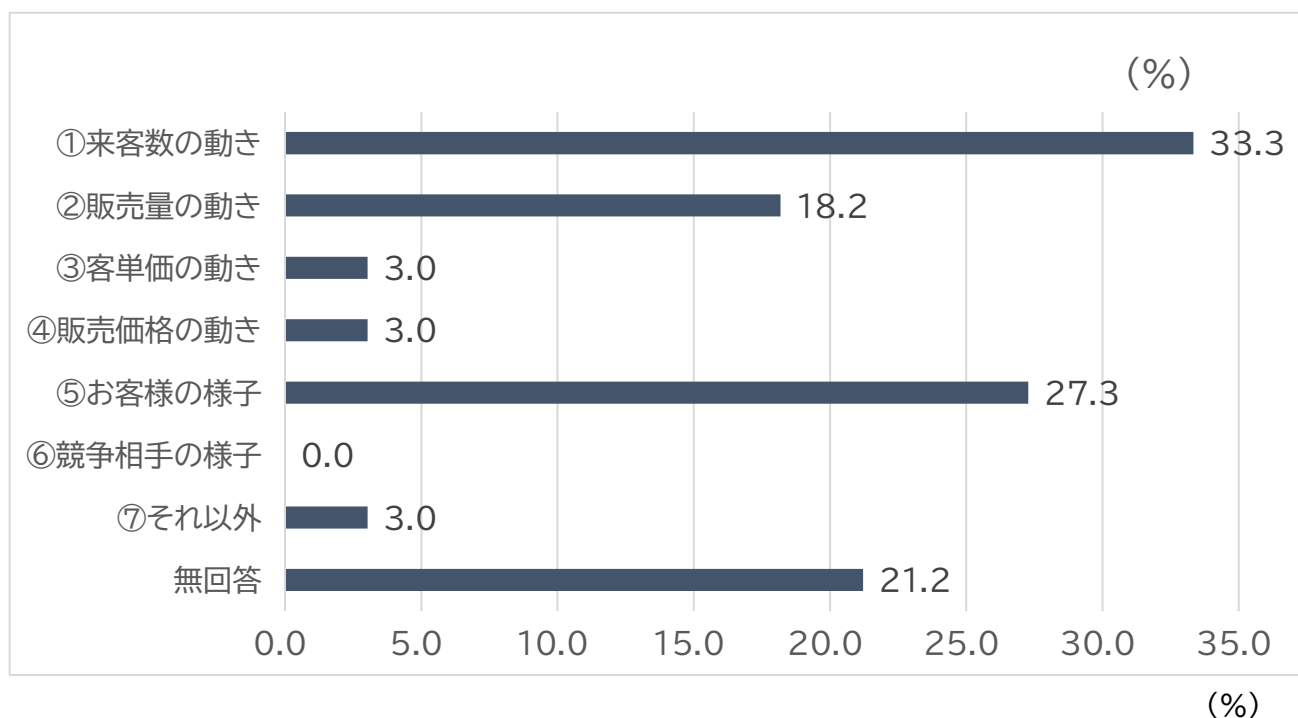
	増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	減少した	無回答	DI
今回 4年 7~12月	0.0	30.3	39.4	24.2	6.1	0.0	48.5
前回 4年 1~6月	7.9	15.8	39.5	28.9	5.3	2.6	48.0
前々回 3年 7~12月	0.0	23.1	43.6	20.5	10.3	2.6	45.4

図表 3-7 DI の推移(%)



質問 6-1: 質問 5 の回答理由(家計消費向け取引)

図表 3-8 質問 5 と質問 6-1(家計消費向け取引)のクロス集計



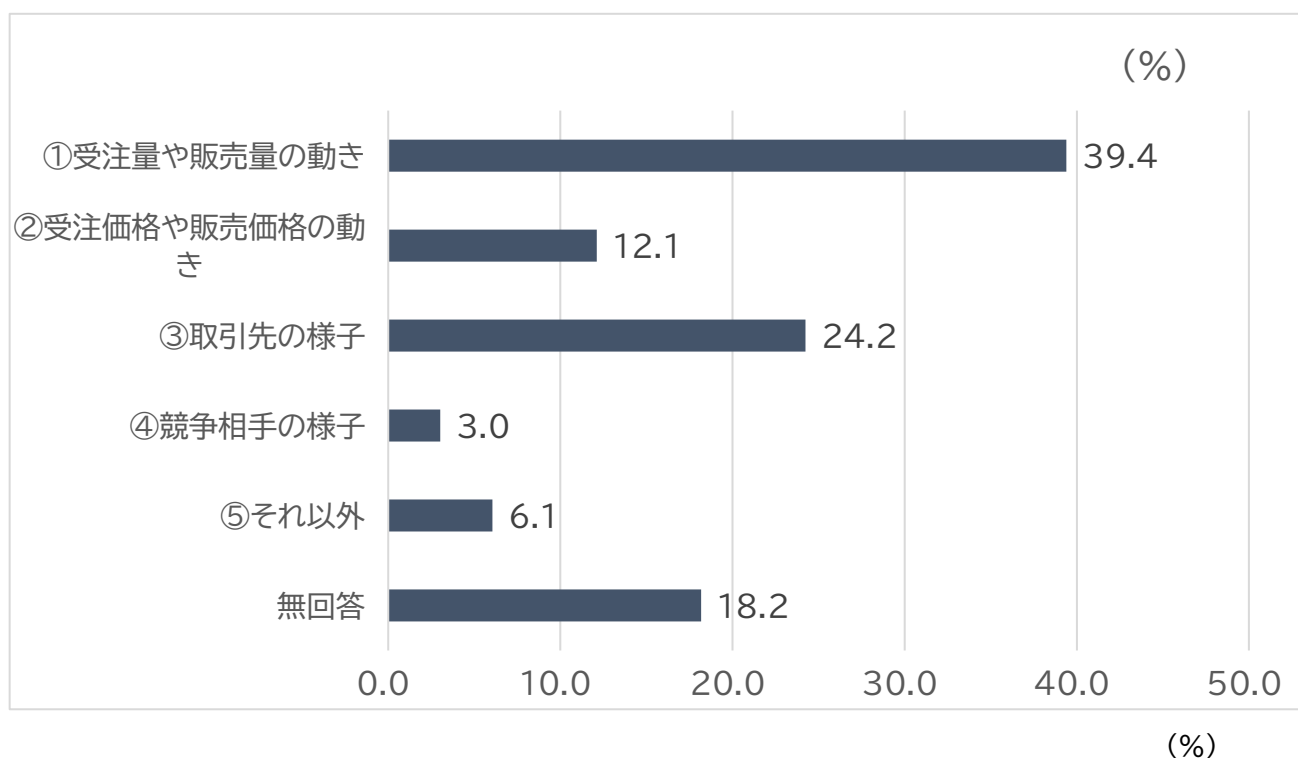
質問 6-1 質問 5	①来客数 の動き	②販売量 の動き	③客単価 の動き	④販売価格 の動き	⑤お客様 の様子	⑥競争相手 の様子	⑦それ 以外	無回答
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや増加した	12.1	9.1	3.0	0.0	6.1	0.0	0.0	3.0
変わらない	12.1	6.1	0.0	0.0	12.1	0.0	3.0	6.1
やや減少した	6.1	3.0	0.0	3.0	9.1	0.0	0.0	9.1
減少した	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	33.3	18.2	3.0	3.0	27.3	0.0	3.0	21.2

(注)無回答は家計向け取引のない企業が含まれる

表の%は 33 社に対する比率。

質問 6-1: 質問 5 の回答理由(企業消費向け取引)

図表 3-9 質問 5 と質問 6-1(企業消費向け取引)のクロス集計



質問 6-1 質問 5	①受注量 や販売量	②受注価格 や販売価格	③取引先 の様子	④競争相手 の様子	⑤それ以外	無回答
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや増加した	12.1	3.0	6.1	0.0	0.0	9.1
変わらない	9.1	9.1	12.1	0.0	3.0	6.1
やや減少した	12.1	0.0	6.1	3.0	3.0	3.0
減少した	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	39.4	12.1	24.2	3.0	6.1	18.2

(注)無回答には企業向け取引のない企業(店舗)が含まれる。

表の%は集計 33 社に対する比率。

質問 6-2: 具体的な回答(家計消費向け取引)

- ◆ やや増加した
 - ・ 「セールにより年末客単価が上がる」(流通業(小売業))
 - ・ 「営業人員を増やした」(通信・放送業)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「自社製品の価格改定を実施し、販売価格を上げたため、お客様の購入する数の減少が顕著になったため。」(サービス業)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「物価が高騰したことにより、受注も減少している」(製造業)
 - ・ 「中古車の価格が高騰しており、車を乗り換える方より、修理して乗り続ける方が多くなってきている為。」(流通業(小売業))
- ◆ 減少した
 - ・ 「土、日の来客数が減っている」(飲食業)
など

質問 6-2: 具体的な回答(企業消費向け取引)

- ◆ やや増加した
 - ・ 「製品出荷量が増加した」(製造業)
 - ・ 「とちぎ国体の来客を得た」(ホテル・旅館業)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「受注量はやや増加傾向にあるが、鋼材等の諸資材、原油価格が高騰しているため。」(製造業)
 - ・ 「コロナによるテレワーク等の増加により、駅利用者の減少・リモート会議による出張者の減少。」(運輸業)
- ◆ やや減少した
 - ・ 「物価が高騰したことにより、受注も減少している」(製造業)
 - ・ 「受注案件の減少・結論までに時間がかかる」(サービス業)
- ◆ 減少した
 - ・ 「具体的な見積もりや物件情報が少なく受注量も少ない」(流通業(小売業))
など

3.2.2. 業界の小山市での売上見通し(質問 7, 8)

業界の小山市での売上見通しに関して、令和 5 年上半期(1~6 月期)は令和 4 年下半期(7~12 月期)と比べ、「増加する」0.0%、「やや増加する」27.3%、「変わらない」48.5%、「やや減少する」21.2%、「減少する」3.0%となった(図表 3-10, 3-11)。前回と比べ「やや増加する」、「やや減少する」の割合が上昇し、「減少する」の割合が下落した。前回調査(令和 4 年 6 月)と比べ、

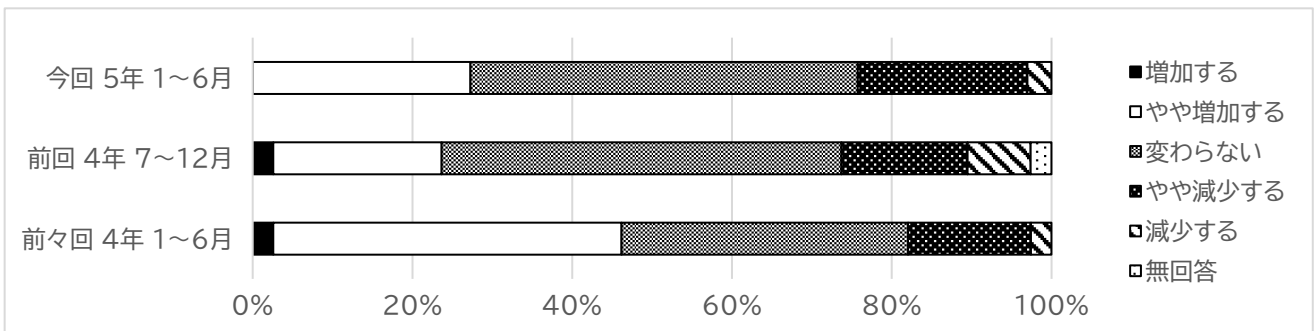
- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや増加する」(+6.2)、「やや減少する」(+5.4)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「減少する」(-4.9)

となった。DI でみると 50.0%と前回(48.6%)とやや上昇傾向にあり、2 期ぶりに 50%に達した。

質問 7 の回答の理由(質問 8)についてみると、新型コロナウイルス感染症流行の収束への期待が挙げられていた一方で、物価の上昇や原材料の供給が滞っていることが懸念されていた。

質問 7: 業界の小山市での売上見通し

図表 3-10 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)

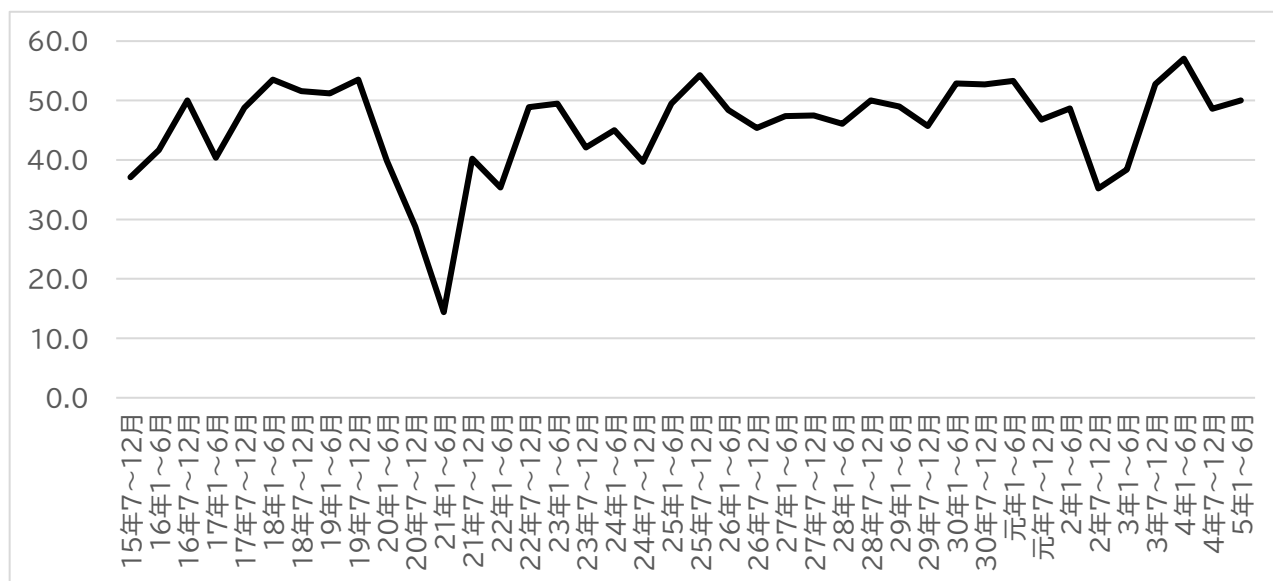


(%)

見通しの対象時期	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	DI
今回 5年 1~6月	0.0	27.3	48.5	21.2	3.0	0.0	50.0
前回 4年 7~12月	2.6	21.1	50.0	15.8	7.9	2.6	48.6
前々回 4年 1~6月	2.6	43.6	35.9	15.4	2.6	0.0	57.1

(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-11 DIの推移(%)



質問 8: 質問 7 の回答理由

- ◆ やや増加する
 - ・ 「コロナ感染者が減少し、飲食の需要が増える。」(ホテル・旅館業)
 - ・ 「半導体不足による機器の納入に若干の目途がついたため」(通信・放送業)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「コロナに慣れてきているとは言え、身近に感染者が増え、なかなか不安はなくなる。」(飲食業)
 - ・ 「コロナ感染や物価高騰がすぐには収まらない。」(運輸業)
- ◆ やや減少する
 - ・ 「先行きが不透明」(金融・保険業)
 - ・ 「増税の話で、消費者が減るため」(流通業(小売業))
 など

3.2.3. 令和 5 年上半期(1～6 月期) の販売価格見通し(質問 9)

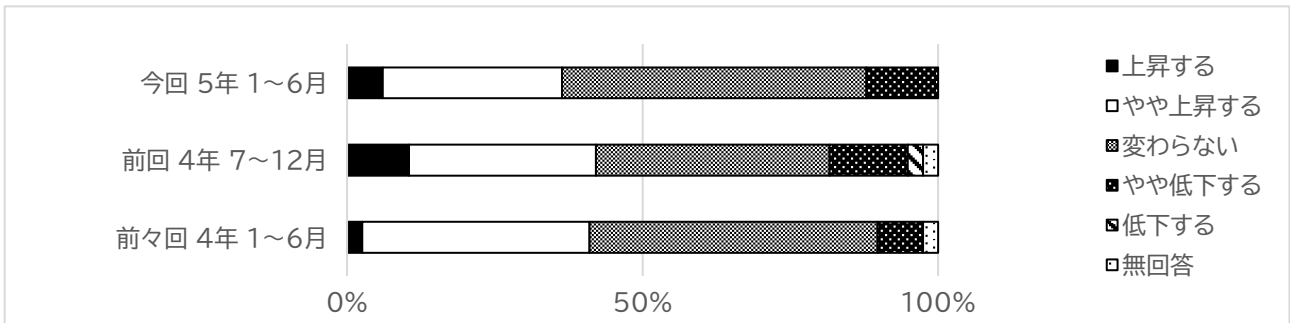
販売価格見通しについて、令和 5 年上半期(1～6 月期)は令和 4 年下半期(7～12 月期)と比べ、「上昇する」6.1%、「やや上昇する」30.3%、「変わらない」51.5%、「やや低下する」12.1%、「低下する」0.0%となった(図表 3-12, 3-13)。前回と比べ「変わらない」の割合が上昇し、「上昇する」の割合が下落した。前回調査(令和 4 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「変わらない」(+12.0)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「上昇する」(-4.4)

となった。DI でみると 57.6%と、前回(58.8%)、前々回(59.2%)から下落傾向にあるものの、4 期連続で 50%を超え、調査開始以来 4 番目に高い水準となった。

質問 9: 令和 5 年下半期(1～6 月期) の販売価格見通し

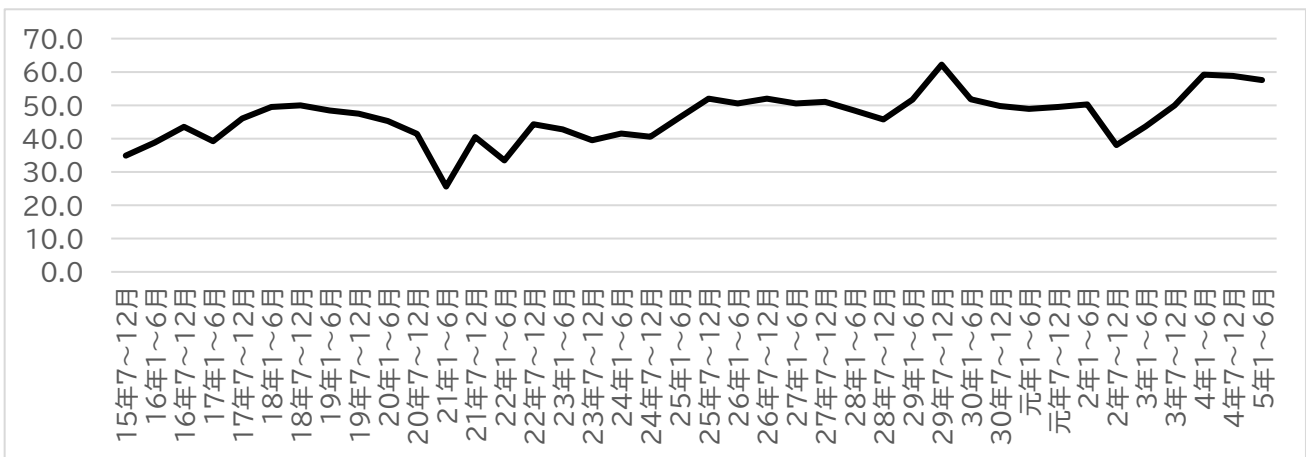
図表 3-12 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回 5 年 1～6 月	6.1	30.3	51.5	12.1	0.0	0.0	57.6
前回 4 年 7～12 月	10.5	31.6	39.5	13.2	2.6	2.6	58.8
前々回 4 年 1～6 月	2.6	38.5	48.7	7.7	0.0	2.6	59.2

図表 3-13 DI の推移(%)



3.2.4. 令和5年上半期(1～6月期)の雇用見通し(質問10)

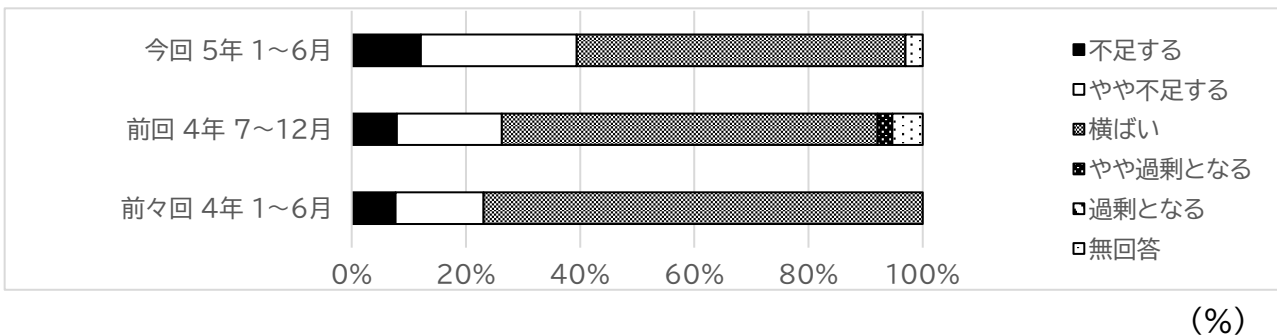
質問10の雇用見通しに関して、令和5上半期(1～6月期)は令和4下半期(7～12月期)と比べ、「不足する」12.1%、「やや不足する」27.3%、「横ばい」57.6%、「やや過剰となる」0.0%、「過剰となる」0.0%となった(図表3-14, 3-15)。前回と比べ「不足する」、「やや不足する」の割合が上昇し、「横ばい」の割合が下落した。前回調査(令和4年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「不足する」(+4.2)、「やや不足する」(+8.9)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「横ばい」(-8.2)

となった。DIで見ると63.3%と、前回(58.3%)、前々回(57.7%)から上昇し、4期連続で50%を上回り、調査開始以来3番目に高い水準となった。

質問10: 令和5年上半期(1～6月期)の雇用見通し

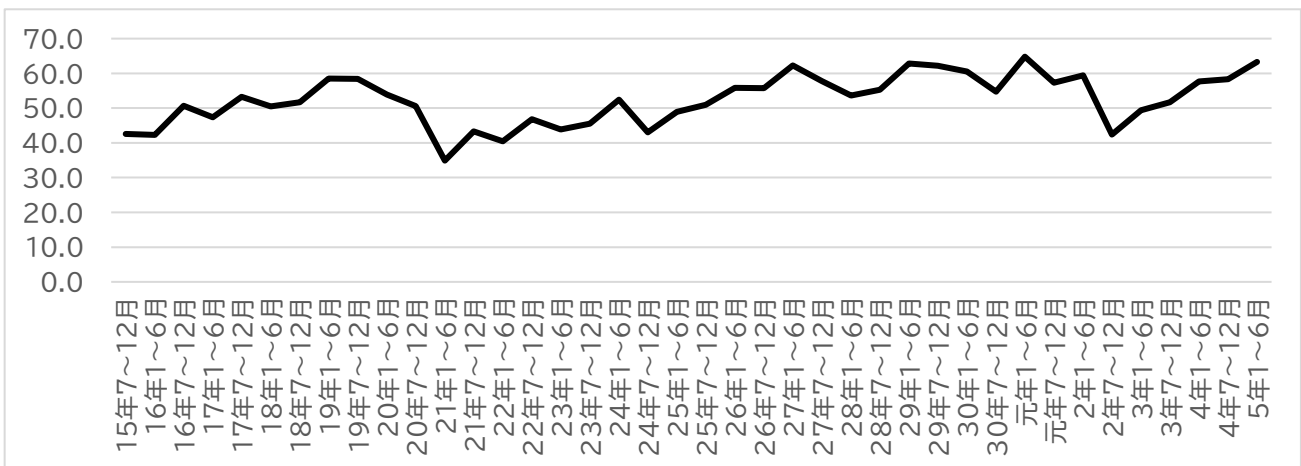
図表 3-14 回答の割合とDI(前回、前々回との比較を含む)



見通しの対象時期	不足する	やや不足する	横ばい	やや過剰となる	過剰となる	無回答	DI
今回 5年 1～6月	12.1	27.3	57.6	0.0	0.0	3.0	63.3
前回 4年 7～12月	7.9	18.4	65.8	2.6	0.0	5.3	58.3
前々回 4年 1～6月	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0	0.0	57.7

(注) 複数選択した回答は無回答に分類した。

図表 3-15 DIの推移(%)



3.2.5. 令和4年下半期(7~12月期)の資金繰りの状況(質問11, 12)

質問11の資金繰りの状況に関して、令和4年下半期(7~12月期)は令和4年上半期(1~6月期)と比べ、「改善した」0.0%、「やや改善した」21.2%、「どちらともいえない」51.5%、「やや悪化した」24.2%、「悪化した」3.0%となった(図表3-16, 3-17)。前回と比べ「やや改善した」の割合が上昇し、「改善した」、「悪化した」の割合が下落した。前回調査(令和4年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや改善した」(+10.7)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「改善した」(-5.3)、「悪化した」(-7.5)

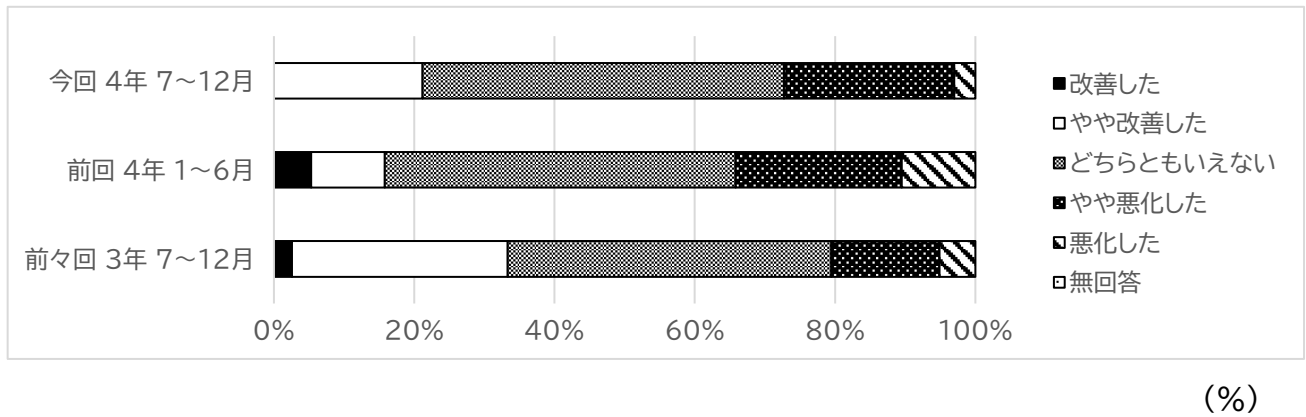
となった。DIで見ると47.7%と、前回(44.1%)から上昇したものの、2期連続50%を下回った。

質問11の回答の理由(質問12)についてみると、「売上高の変化」(60.6%)、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(54.5%)、「人件費の変化」(24.2%)が上位三位までの理由だった(図表3-18)。前回調査から、特に「売上高の変化」の割合が大きく上昇した。前回調査(令和4年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「売上高の変化」(+18.5)、
「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(+4.5)、
「金融機関の貸出態度の変化」(+3.0)、「その他」(+6.8)、
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「設備資金需要の変化」(-7.5)、「金融政策、金利の変化」(-10.5)
- となった。

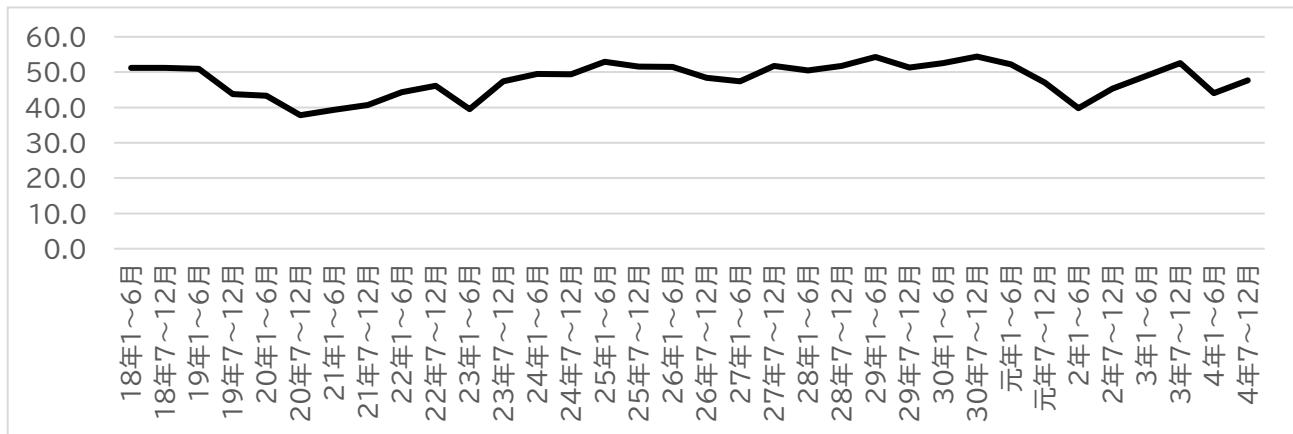
質問 11: 令和 4 年下半期(7~12 月期) の資金繰りの状況

図表 3-16 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



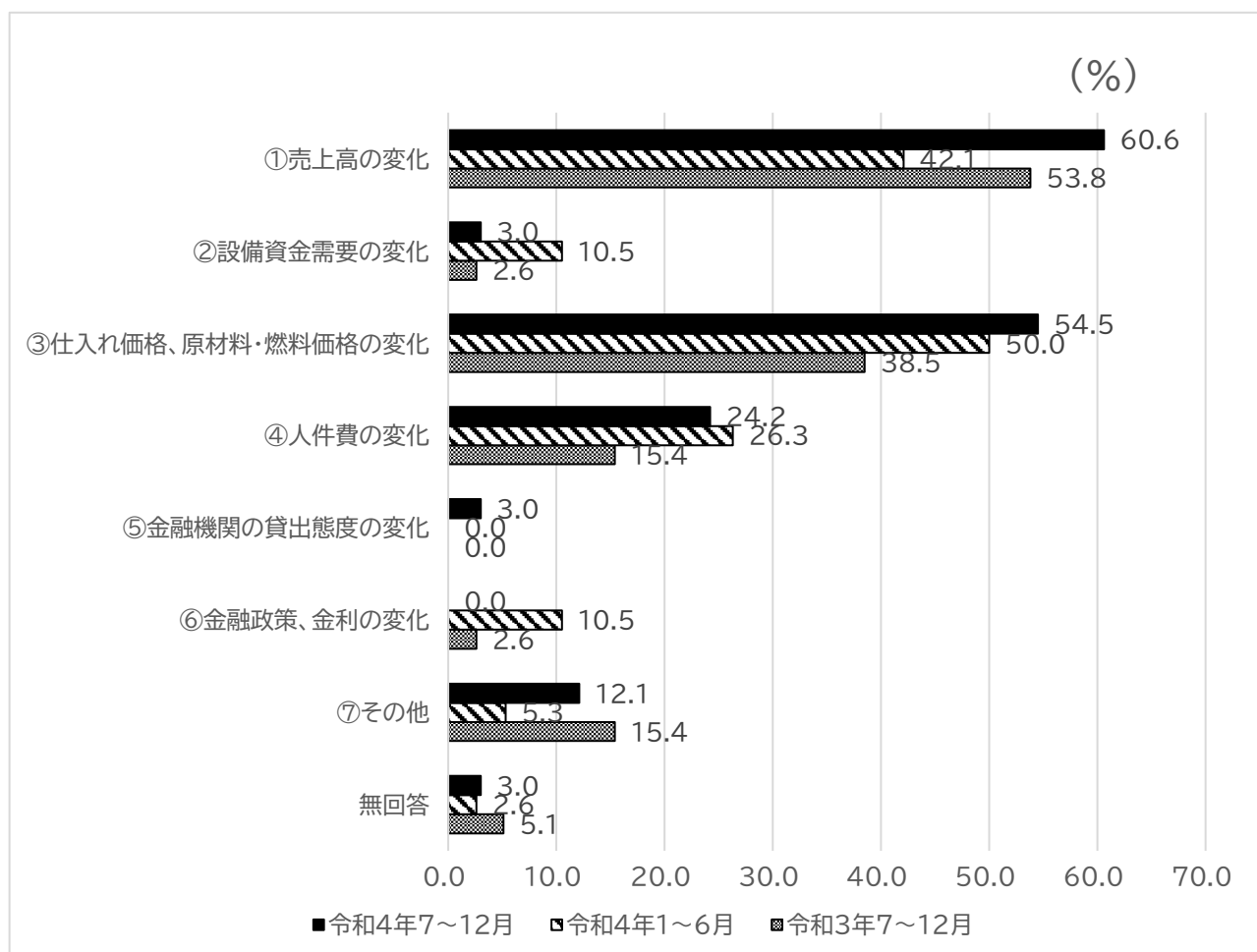
	改善した	やや改善した	どちらとも いえない	やや悪化した	悪化した	無回答	DI
今回 4年 7~12月	0.0	21.2	51.5	24.2	3.0	0.0	47.7
前回 4年 1~6月	5.3	10.5	50.0	23.7	10.5	0.0	44.1
前々回 3年 7~12月	2.6	30.8	46.2	15.4	5.1	0.0	52.6

図表 3-17 DI の推移(%)



質問 12: 質問 11 の回答理由

図表 3-18 回答の割合(前回、前々回との比較を含む)



(%)

質問 12	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答
質問 11								
改善した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや改善した	15.2	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	6.1	0.0
どちらともいえない	30.3	0.0	24.2	15.2	3.0	0.0	6.1	3.0
やや悪化した	15.2	0.0	24.2	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0
悪化した	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	60.6	3.0	54.5	24.2	3.0	0.0	12.1	3.0

(注) 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

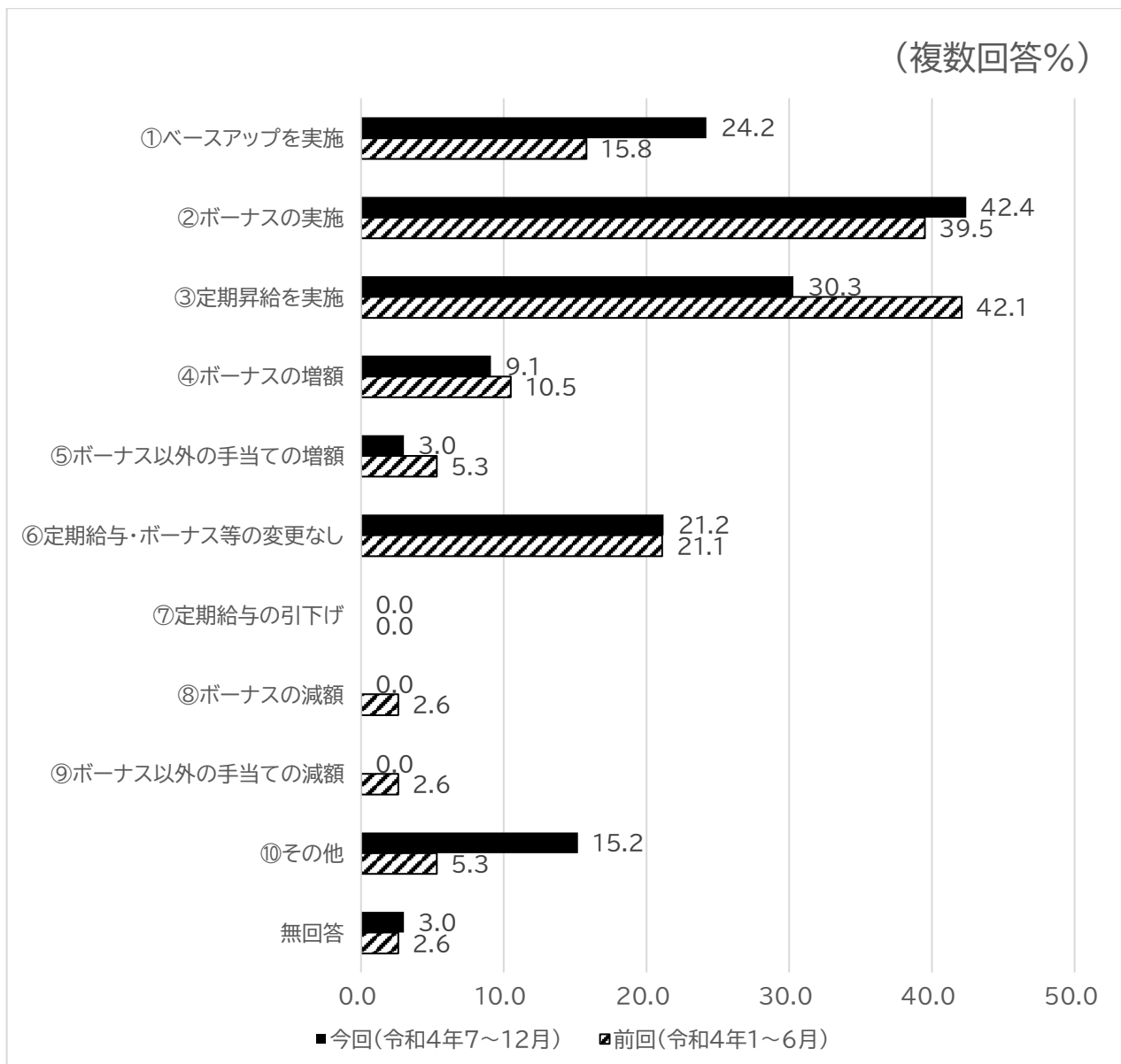
3.2.6. 賃金等の状況(質問 13, 14)

前回調査(令和4年6月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「ベースアップを実施」(+8.4)、「その他」(+9.9)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「定期昇給を実施」(-11.8)

質問 13: 賃金等の状況

図表 3-19 回答の割合(前期との比較を含む)



質問 14: 質問 13 の回答理由

- ◆ ①ベースアップを実施
 - ・ 「人材確保の為」
- ◆ ②ボーナスの実施
 - ・ 「物価が上昇している為」
- ◆ ⑤ボーナス以外の手当の増額
 - ・ 「不景気で賞与は見込めないため。残業代などを多く支払維持させている。」
- ◆ ⑥定期給与・ボーナス等の変更なし
 - ・ 「会社業績は厳しいが、人材流出を防ぐため、昨年同水準を維持。」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施
 - ・ 「雇用の維持」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「増収増益のため」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「社員に対し、利益の分配を約束している。社員が長く働ける企業を目指している為。」
 - ・ 「利益の一部を従業員へ還元、士気向上、賃上げ 3%目標実施」
- ◆ ③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「利益が少し上がったため、ボーナスが増額した。」
 - など

3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問

質問 15～17 は、小山市における昨今の社会・経済情勢に関する質問を行った。以下その結果を述べる。

3.3.1. 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響

質問 15(質問 15-1～15-3)、質問 16 では新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)の影響とその理由についてたずねた。それぞれ、供給面(質問 15-1)、営業・勤務形態等(質問 15-2)、需要面(質問 15-3)の影響に分けて質問を行った。

その結果(複数回答可)をみると、まず、供給面(質問 15-1)では、「コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ」(27.3%)、「コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ」(24.2%)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(18.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-20)。

前回調査(令和 4 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ」(+13.7)、
「供給能力はコロナ禍前の状況に回復した」(+12.1)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「原材料・部品の入手の状況はコロナ禍前に戻った」(-4.9)、
「供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない」(-8.5)、
「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(-8.1)

となった(図表 3-20)。

次に、営業・勤務形態等(質問 15-2)では、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(27.3%)、「コロナ禍前の営業時間に戻った」(18.2%)、「コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ」(18.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-21)。

前回調査(令和 4 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ」(+5.0)、
「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(+3.6)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ」(-3.2)、
「従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った」(-6.7)、
「コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている」(-6.7)、
「コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ」(-4.4)、
「コロナ禍前と比べ業態転換が進んだ」(-5.3)

となった(図表 3-21)。

最後に、需要面(質問 15-3)では、「コロナ禍前に比べ需要全体が減少した」(45.5%)、「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(27.3%)、「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」(12.1%)が上位三位までの理由だった(図表 3-22)。

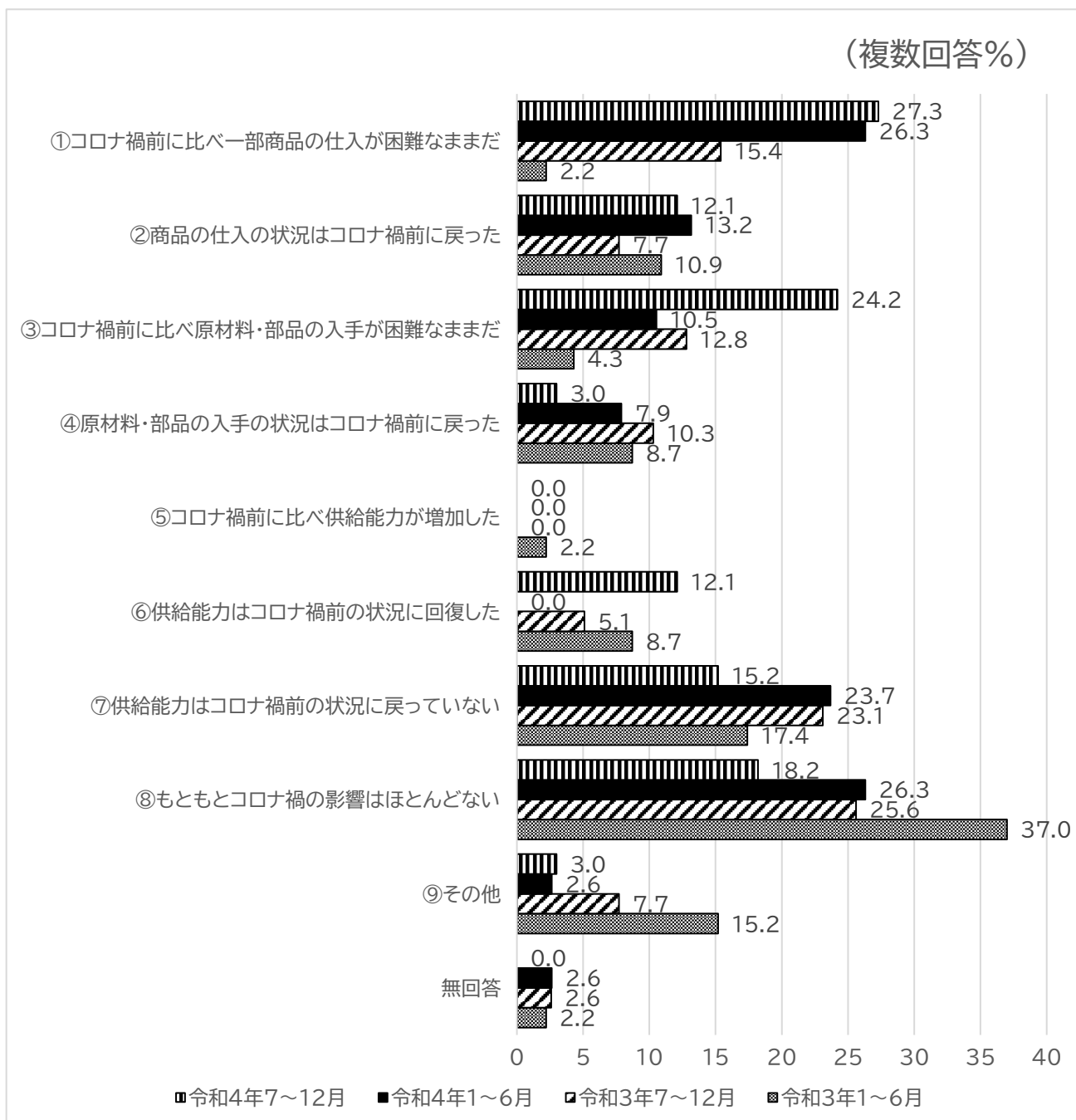
前回調査(令和 4 年 6 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した」(+3.5)、

- 「もともとコロナ禍の影響はほとんどない」(+8.9)、その他(+3.0)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した」(-3.7)、
「全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した」(-7.1)
となった(図表 3-22)。

質問 15-1: コロナ禍の影響(供給面)

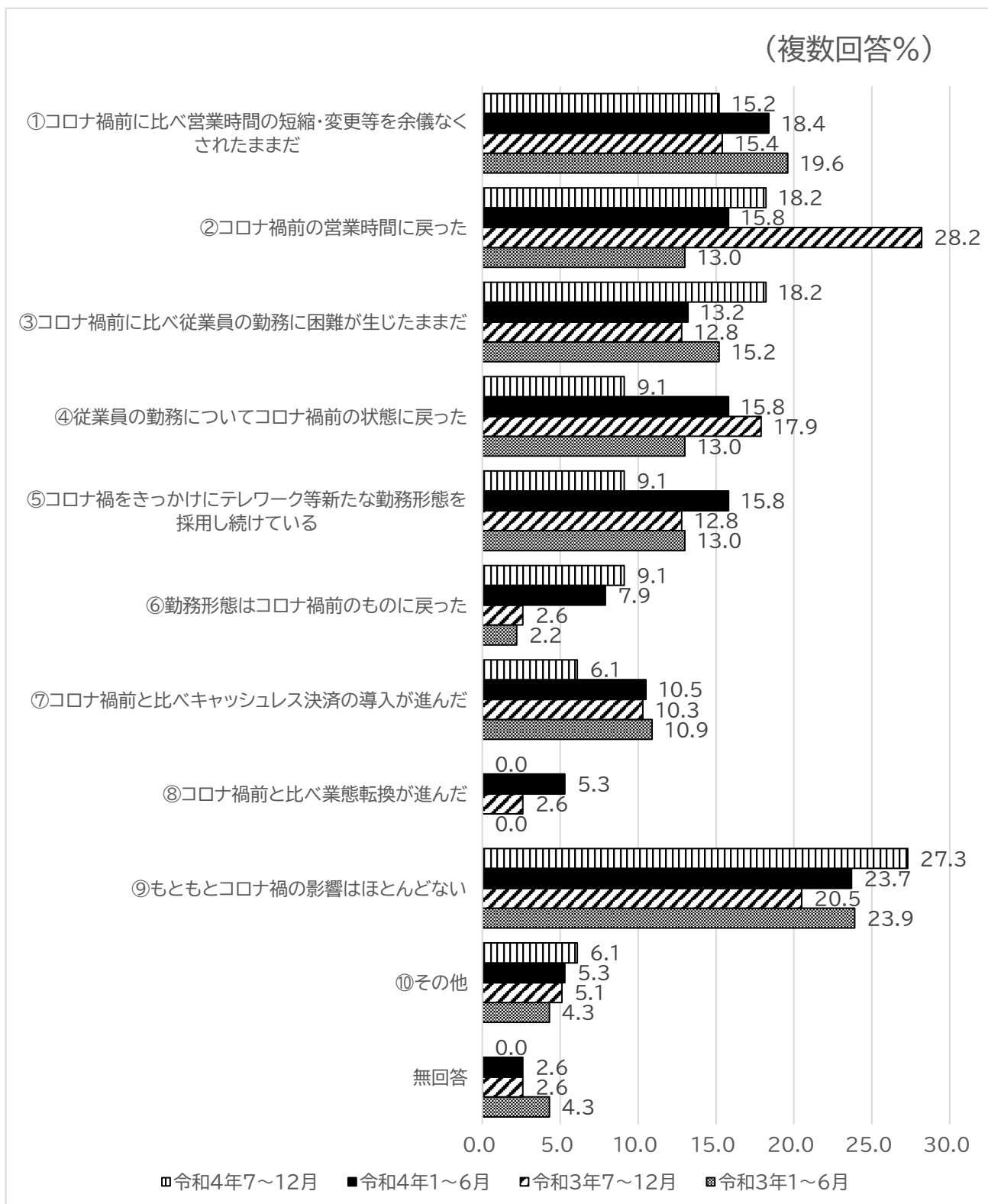
図表 3-20 回答の割合



(注) 今回調査は 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 15-2: コロナ禍の影響(営業・勤務形態等)

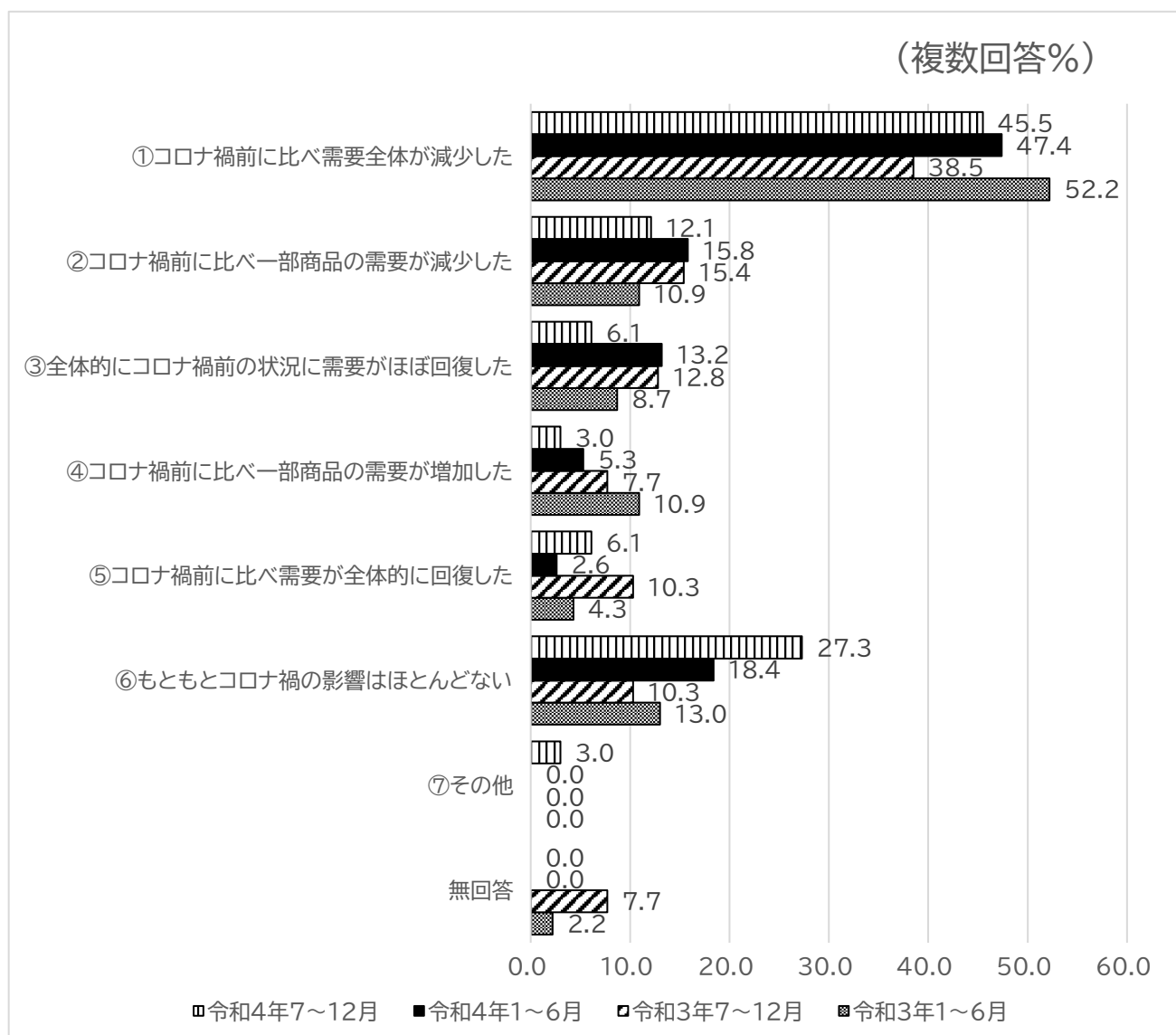
図表 3-21 回答の割合



(注) 今回調査は 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 15-3: コロナ禍の影響(需要面)

図表 3-22 回答の割合



(注) 今回調査は 33 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 16: 質問 15 の回答理由

- ・ 「建築・土木工事に関してはほとんど影響がなく、通常に動いていた。」(質問 15-1④、15-2⑨、15-3⑥)
- ・ 「大型フローライト設備関連の仕事が増加した。」(質問 15-1③、15-2⑨、15-3⑤)
- ・ 「いちばんひどい状況は過ぎたと思いますが、まだ影響が残っている気がします。」(質問 15-1②、15-2②、15-3②)
- ・ 「大人数での宴会が戻らない。業務出張が減少し宿泊客が減少している。スポーツ団体の合宿がコロナにより減少している。」(質問 15-1③、15-2①、③、15-3①)
- ・ 「外出需要の増⇔インフレ拡大(今後はこちらが大きくなると想定)」(質問 15-1③、15-2②、⑦、15-3②、④)
- ・ 「コロナ融資終了により運転資金需要の減少」(質問 15-1⑧、15-2②、15-3①)
- ・ 「一時的にお客様の来店が減少したが、現在はコロナ前と変わらない程度に戻っている。」(質問 15-1⑧、15-2⑥、15-3⑥)
- ・ 「コロナ禍の影響はかなり大きい。自主的に販売制限して、感染拡大防止を最優先させているため。」(質問 15-1⑨、15-2①、15-3①)
- ・ 「新型コロナウイルスの感染力が強く、従業員の感染者が多く出て勤務に支障をきたした。」(質問 15-1⑦、15-2⑦、15-3①)
など

3.3.2. いちご一会とちぎ国体および、いちご一会とちぎ大会の売上げへの影響

質問 17(質問 17-1~17-3)ではいちご一会とちぎ国体(第 77 回国民体育大会、10 月 1-11 日)および、いちご一会とちぎ大会(第 22 回障害者スポーツ大会、10 月 29-31 日)の売上げへの影響についてたずねた。

質問 17-1 では、大会期間中およびその前後の期間の売上げは、例年の同じ期間と比べて増加したかたずねた。「変わらない」が 84.8%と最も高い割合であり、次に「やや増加した」が 9.1%となった(図表 3-23)。

次に、質問 17-2 で、質問 17-1 の回答理由を家計消費向け取引(B to C)、企業向け取引(B to B)にわけてたずねた。

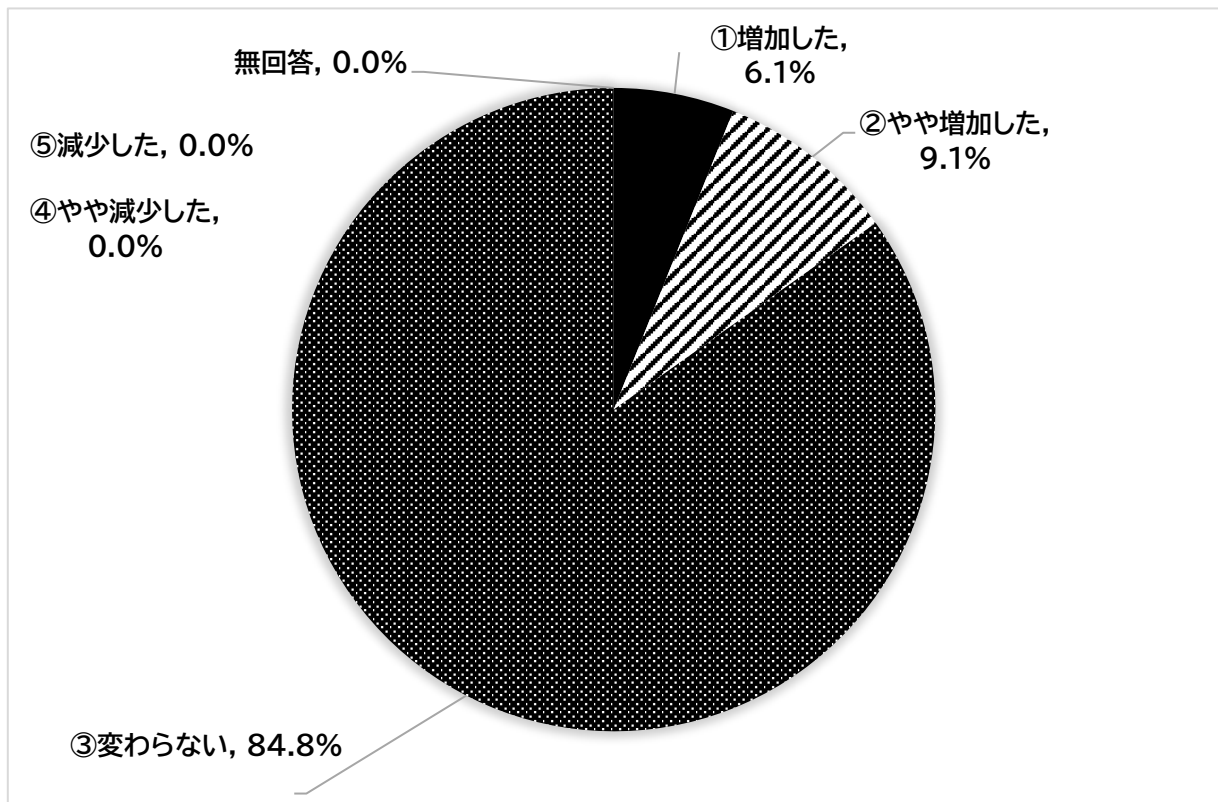
家計向け取引について、「無回答」を除いて、「来客数の動き」(30.3%)、「お客様の様子」(21.2%)、「販売量の動き」(12.1%)が上位三位までの理由だった(図表 3-24)。これは、質問 6-1 の回答と同じ傾向であった。

企業向け取引の場合、「無回答」を除いて、「受注量や販売量の動き」(27.3%)、「取引先の様子」(27.3%)、「それ以外」(15.2%)が上位三位までの理由だった(図表 3-25)。

質問 17-3 の回答理由では、国体関連の業務を行った業界、企業にはプラスの影響をもたらしたものの、影響がないと回答する業界、企業も見られた。

質問 17-1: 大会期間中およびその前後の期間の売上げは、例年の同じ期間と比べて増加したか

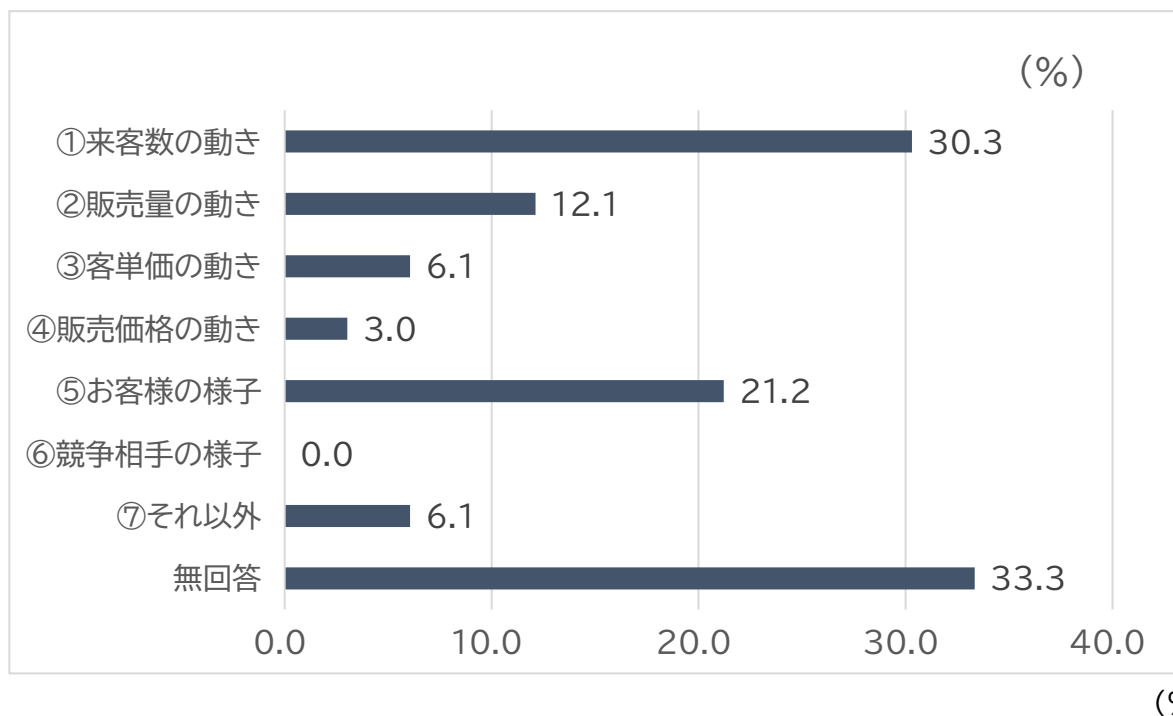
図表 3-23 回答の割合



(注)33 社に対する割合

質問 17-2: 質問 17-1の回答理由

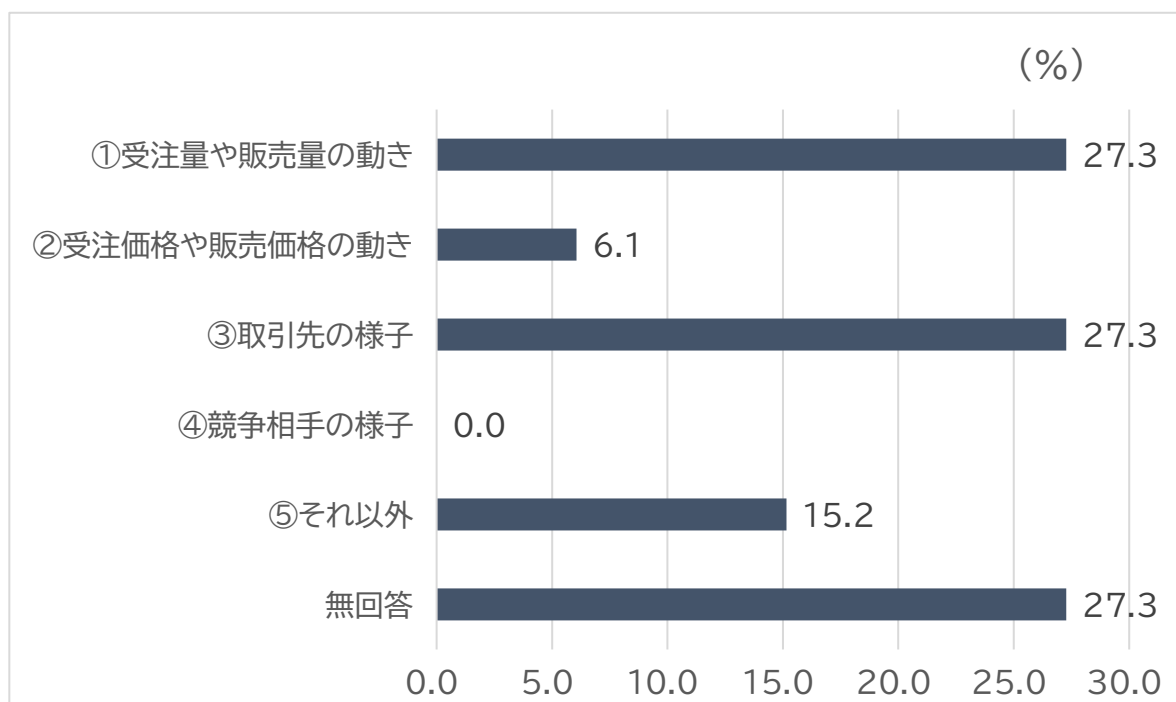
図表 3-24 質問 17-1 と質問 17-2(家計消費向け取引(B to C))のクロス集計



質問 17-2 質問 17-1	①来客数 の動き	②販売量 の動き	③客単価 の動き	④販売価格 の動き	⑤お客様 の様子	⑥競争相手 の様子	⑦それ 以外	無回答
増加した	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや増加した	6.1	3.0	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
変わらない	18.2	9.1	0.0	3.0	18.2	0.0	6.1	33.3
やや減少した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
減少した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	30.3	12.1	6.1	3.0	21.2	0.0	6.1	33.3

(注)無回答は家計向け取引のない企業が含まれる
表の%は 33 社に対する比率。

図表 3-25 質問 17-1 と質問 17-2(企業消費向け取引(B to B))のクロス集計



質問 17-3 質問 17-1	①受注量 や販売量	②受注価格 や販売価格	③取引先 の様子	④競争相手 の様子	⑤それ以外	無回答
増加した	6.1	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
やや増加した	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	6.1
変わらない	21.2	0.0	27.3	0.0	15.2	21.2
やや減少した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
減少した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	27.3	6.1	27.3	0.0	15.2	27.3

(注)無回答には企業向け取引のない企業(店舗)が含まれる。

表の%は集計 33 社に対する比率。

質問 17-3: 質問 17-1の具体的な回答

- ◆ 増加した
 - ・ 「とちぎ国体の宿泊者は1泊2食@16500と高単価であったため。売上、客単価が伸びた。」(質問 17-2(B to C)①、③、質問 17-2(B to B)①、②)
 - ・ 「選手の送迎」(質問 17-2(B to C)①、質問 17-2(B to B)①)
- ◆ やや増加した
 - ・ 「とちぎ国体の売上分が少々伸びた。その分、他のお客様に問題が生じた。」(質問 17-2(B to C)①、質問 17-2(B to B)②)
 - ・ 「大会に係る業務の受注と、大会期間中のテレビ CM 放送契約」(質問 17-2(B to C)⑤)
- ◆ 変わらない
 - ・ 「国体への関心が少なかったと思います。」(質問 17-2(B to C)⑤、質問 17-2(B to B)③)
 - ・ 「大会による人の動きが弊社にとってみられなく、相乗効果はなかった。」(質問 17-2(B to C)⑤)
 - ・ 「物流と言う意味では特に変化はなかったように思う。」(質問 17-2(B to B)①)
など

4. 小山市経済動向ヒアリング調査

令和5年2月上旬、小山市の経済動向に敏感な代表的業種の方々に、白鷗大学にお集まりいただき形(令和5年2月9日)と書面とでヒアリング調査を行った。業種は流通業(小売業)、製造業、運輸業、通信・放送業、金融・保険業、不動産・住宅業、ホテル・旅館業、および小山商工会議所の方々である。各業界関係者の方々には3つの共通質問と業界別の追加質問、小山商工会議所の方には個別の質問にお答えいただいた。また、ヒアリング調査実施後、白鷗大学経営学部の小笠原教授(ビジネス開発研究所長)からコメントがあった。

流通業(小売業)(スーパーマーケット)

質問1 新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2023年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

昨年の3月から今年の1月までの売上は昨年と変わっていない。見通しとしては、現在、去年と比べて客単価103%の伸び率であり、このまま戻ってくるのではないかとみている。ただ、客数自体は去年に比べて減ってきており、それは競争店の絡みが要因であり、価格競争の動向を加味していかなければならないと考えている。コロナに関しては今のところ緩和されてきており、今年は客数が戻ってくるのではないかということ、客数は減っていても客単価は上がってきている。

年末年始については、コロナのお客様が非常に多く、従業員もこの期間、コロナで休職している者が非常に多く、昨年に比べて93%の売上高で苦戦したが、2年前のコロナが始まった時期と比べると戻ってきている。競争店の絡みや物価の高騰、電気代の高騰もあり、お客様が非常にシビアになっている。この商品の価格が上がるという報道があると、お客様が高くなる前にお買い上げいただくということで在庫がなくなる傾向があることを事前に押さえることができるかというとなかなか難しいところもあり、プライベートブランドを増やして、価格も据え置きで品ぞろえを考えるという対策をしている。

質問2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

最低賃金が毎年上がっている。栃木も913円が小売としては最低賃金ということで、大体10円上がりで920円が最低という形でスタートして、現時点も上げており、今後も上げていく予定である。今から働かれる方々については、扶養内で働かれている方、扶養から外れて社会保険に入って長い時間で働いていただけるのかというところで、従業員が採れるか採れないかに関わり、社会保険に加入して働いていただける方を考えての対応である。

質問3 2023年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

今のところ店としては決まっていない段階である。

質問4 令和4年度プレミアム付き小山市共通商品券の効果について教えてください。過去の同様の商品券との比較を含め教えてください。

去年に比べて非常に定着しており、大体10月からプレミアム商品券が始まり、今年は特に去年より非常に使用率が多く、使用率は115%である。3月になると終わるので減ってくるが、「いちご一会とちぎ旅」(地域限定クーポン)が増えている。

流通業(小売業)(自動車販売)

質問1 新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2023年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

コロナ前と比べるとかなり落ちているが、前年と比べるとやや上昇傾向である。半導体による新車の遅れという形でこれを軸にした物流関係が非常に厳しい状況になっている。80%ぐらいの供給である。

業界全体では、軽自動車を主に扱っている企業の供給は十分にされ、こちらは割といい傾向になっている。ディーラーの強い企業はメーカーに対してものを言えるので、その分1月から3月、今年に入ってからにはちょっと強含みという形である。その他の企業は今契約、注文のお客様が1年ぐらい待ち、軽自動車でも3カ月から半年ぐらい待つというような状況が続いている。1年間を通しての全体の景気としては非常に厳しい状況である。

業界全体ではコロナ前の2019年が520万台、去年の2022年が420万台ということで非常に厳しい状況である。毎年ここ3年間は95%、90%ぐらいという形で前年割れしている。ただ、サービス面、整備面では2020年のコロナの流行が始まったころに比べるとお客様も徐々に戻ってきて普通に一般整備を受けられるという形で、行動制限がなくなってから、特に今年は少し車検の対象が多いということもあり伸びている。

2023年の見通しは、半年間から1年、2023年全体的に半導体の解消には至らないのではないかという見通しで、8割ぐらいの供給の中でしっかりと売っていく、やっていくということで、そのほかの部分、プラスアルファのものをやっていかなければならない、整備などその他の附帯商品に関して伸ばしていく形になるだろうと考えている。

また、最近の仕入れ価格、その他、物価の上昇というよりはまだお客様への価格転嫁があまりできていない。ディーラー全体がそういう形になっている。整備の単価などが、おそらく4月以降に少し上がるのではないかと、当社も4月以降に少し値上がりを見込んでいる。今のところ先に値上がりした油脂類その他はかぶるような形にはなっているが、これはタイミングその他が難しいという形で、その中で全体を行っているような形である。

年末年始に関しては、前年を上回っている。小山市内の当社の拠点も宇都宮の拠点も非常に好調だったが、物が入ってこないため、あまり実感がないという状況である。

質問 2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

それほど多くの人数ではないが、パートでやっていただいている方の賃金は上げなくてはならないと考えている。去年の10月1日から社会保険に加入する人、加入を希望する人、加入を希望する場合には年金の上乗せという形で分けており、本人の希望で加入する人に関しては少し手取りが減ってしまうために時間を延ばせる人は少し時間を延ばして対応したというような現状である。

メーカーは順調に賃上げしていくと思うが、ディーラーはなかなか合わせきれないため、頑張っている部分をわかるような形で示していくために賃上げのパーセンテージについての検討に入っている。そのタイミングで給与全体の見直しを図らなくてはならない。これは、理由としては昨今時短とか有給休暇の消化とか、そういうものを当たり前のようにやっていかなければいけない中で、働き方が少しずつ変わってきている。営業マンも訪問販売というよりは来店してもらって販売をしていくという形に様変わりしている。いろいろな形で見直しをしてやっていくことを考えている。

質問 3 2023年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

インボイス制度については、メーカーと会計システムが一緒になるため、メーカーのやり方に準じて対応していくということで特別の対応はしていないが、インボイス制度の対象となる小さい事業者に対してはそれなりの対応をしていくという形で示していく。

質問 4 2022年に自動車業界は半導体不足など供給制約が問題になりましたが、自動車販売の視点から2022年の状況と2023年の見通しについて教えてください。

半導体不足の問題が一番自動車業界の供給制約になっており、2023年の9月以降では少し回復傾向がみられるとは思いますが、本格的に正常な状態になるのは2024年から2025年ぐらいまでかかっていくと考えている。

質問 5 電気自動車(EV)の最近の売上と今後の見通しについて教えてください。

電気自動車については、日本車が非常に弱く、テスラ(米・Tesla)をはじめとする米国車、中国のBYD(中国・比亞迪)の販売店もこの前から来ており、そちらの動きに比べると日本車の電気自動車の割合は、2022年の業界全体の420万台のうちの1~2%ということで非常に普及率としては悪い。半導体不足もあって注文はいただいているが納車になっていないという形も含めているが、それを差し引いても諸外国の数字から見ると進んでいないというのが現状である。

2023年度後半、あるいは2024年度から各社電気自動車については市場に出してくるので、割合は自然と増えると思われる。電気自動車に準ずるものとしてハイブリッド車があるが、ハイブリッド車についてはガソリン車を上回る需要になっている。軽自動車のほうはハイブリッドに近いシステムがどんどんそちらに置き換わっていくとみている。

製造業

質問 1 新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2023年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

コロナで売上が3割落ち、一昨年は2割戻り、現状はそこからするとまた1割減である。利益は、特に現状と前年を比べると全体的には8,500万円売上が減って経費は3,000万円増である。鋼材価格は上がっているが、それについては比較のお客様に上がった分だけという形で転嫁をさせていただいているがプラスにはまだできていない。なおかつそれ以外の経費、人件費、光熱費、燃料代、機械に使う工具といった諸々が上がっているが、それがほとんど転嫁できていないということで、売上減の経費増というのが顕著になっている。

年末年始を含めて非常にさみしい、盛り上がりがない年末だった。昨年は半導体の製造装置のメーカーが非常に好調だということで話題になったが、昨年のはじめからは2割ぐらい減産という話が出てきて、実際に関連の仕事も減ってきているイメージがあったが、実際には減っているというよりも昨年前半までが異常な数値だった、それが通常に戻ったという言い方をされている。建機系、各メーカーは引き続き好調だと聞いている。工作機械も昨年は過去2番目の売上高、1兆8,000億円か7,000億円というように聞いている。今年度、2023年度の見通しもそれに次ぐ3番目の見通しを出せると聞いている。部品や製造ラインとか専用機械というような仕事をされているお客様については、半導体と同様に、部品が揃わないと完成しない、組み立てられないのでその先のお客様に納入できない、従って次の注文も出せないということを頻りに聞いている。

2023年の見通しは、前半は2022年と動きは変わらないと考えている。現時点では好転の兆しというのが顕著にあるわけではないとみている。絶好調から平常、あるいは減産というメーカーも多いので、同じ業界でもメーカーによって業績に大きな違いが出ると思う。モーターは自動車、そのほかにも今はたくさん使われており、そのモーターの試作をするお客様はこの2~3年絶好調と言っているくらいで、こちらは今も忙しい状況である。電動化というものの流れは車以外にもあるとみている。

鋼材価格の上昇は一時ほどではないが、メーカーは値上げをもくろんでおり、一般的な鋼材、特殊鋼といわれる材料も4月以降は値上げするというように聞いているため、まだまだ素材は上がると考えている。ただ、生産自体は若干停滞しているためスクラップ価格は高止まりというような印象である。経費増は大きなネックになるので、この先鋼材価格だけではないほかのすべての経費を、どれだけお客様に値上げを認めていただけるかが非常に大きな問題になると考えている。

質問 2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

毎日のように賃上げの話題が出ており、従業員にとっても物価上昇が負担になってくると思っている。春の昇給を検討しているが、先ほどのような状況からいくと上げたくても上げる原資がないということでどうしたものかと考えている。ただ、今採用も非常に厳しいので、賃金を上げないと求人もなかなかままならない。新卒採用も某有名なところがものすごく上げるという話が出たが、正社員は中小企

業でも新卒採用をしようと思うと、初任給をずっと同じ金額で出していたが、これでは採用は厳しいのではないかと思い、対応をしなければならぬと考えている。ただ、初任給を上げると現在の従業員の給与を見直す必要も出てくるので、簡単にはいかないというのが正直なところである。

質問 3 2023 年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

インボイスについては、主に仕入れ先と思うが、個人でやっているようなお客さんの場合は多少影響があると思う。その辺は早目に相談をして対応していきたいと考えている。

質問 4 最近の資源・原材料費の高騰が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

資源・原材料費の高騰ということが現実非常に大きな影響で、売上減の経費増、利益も半減というのが現状である。この辺を改善していかないと経営にも影響してくると思っている。

質問 5 2022 年は中国のゼロコロナ政策及び、政策の解除が行われましたが、これらの中国の政策が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

中国のゼロコロナ政策及び政策の解除の影響については、中国向けに製造の装置を出荷するとか、あるいは中国で部品をつくるか、そういうお客様、仕入れ先が多いのでこちらのほうの影響が非常に大きいと考えている。今のような中国の低迷であると、なかなか新しい案件が出てこないということもあり、それから半導体製造装置でいうとアメリカからのプレッシャー、規制が強化されると日本で輸出できないということで国内のメーカー、下請けに影響が出るということで、我々としては非常に危惧している。

運輸業(タクシー)

質問 1 新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022 年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2023 年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2 年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

コロナ禍前、2019 年と比較すると、新型コロナウイルス感染症に伴い観光客の激減、イベントの中止があり、外出の自粛やオンライン会議やテレワークの推進、そして飲食店の営業時間短縮要請などにより人の動きが止まり、2022 年においては栃木県内全体としては売上が 3 割減と厳しい経営状態である。また、原油価格の高騰により電気料金の上昇や石油関連商品のコスト高に伴う物価の上昇、また燃料価格の上昇に伴う輸送コストの上昇などさらなる打撃を受けている状況である。ただ、昨年は栃木県において 9 月、10 月にいちご一会とちぎ国体があり、運輸部門については、小山地区を会場とした新体操、水泳、空手、車椅子バスケットなどが開催され、それに伴う輸送ということで若干増収となった。昨年「GO」アプリ(タクシー配車アプリ)などの導入、栃木県より委託を受けて感染者送迎車輛の運行等々を、少しでも増収に向けて行っているところだが、全体的に非常に厳しい状況で、2020 年がコロナ禍前の 3 割減、2021 年が 2 割減、昨年 2022 年が 5%減ぐらいにまで持ち直してきているという状況である。

2023年の見通しは、旅客輸送についてはイベントとかそういうものがないとなかなか増収は見込めないのだが、今年はコロナ禍前と同じように、分散ではなく思川河畔の会場で花火を上げるという話、相撲の小山場所が8月に開催されるという話もある。7月31日から8月4日については小山高校出のプロ野球の広澤(克実)さんが、女子野球の監督、全体の代表ということで、世界の女子野球を集めて大会が小山で開かれるということである。こういったイベントにより、2022年よりは2023年のほうが、全体的に上昇するのではないかと期待している。

ただ、乗務員不足が今栃木県内でも非常に問題になっている。コロナ禍から1年ごとに大体栃木県全体で100名ずつ乗務員が減っている。コロナ禍前、全体で2,000人いた乗務員が今は1,700名ということで、なおかつ非常に高齢化しており、栃木県のドライバーの平均年齢は64歳、あと5年もすれば70歳になってしまうということで非常に乗務員不足が叫ばれている。経済が戻っても今度は車はあるけれども運転する人がいないという状況が、今後生まれてくるのではないかと考えている。弊社としても同じような形で高齢化しており、2022年に8名が高齢化という都合で退社し、入ってきたのが3名ということで5名減である。募集はしているがなかなか入ってこない。まだまだ自動運転の車はできそうにはなく、今後は地方のタクシー会社というのはかなり疲弊していくのではないかと考えている。

2021年は夏から秋にかけて新型コロナウイルス流行の第5波で自粛されていた。それが明けた反動で、おとしの暮れはかなり売上が上がった。コロナ禍前と同等ぐらいにまで上がった。去年の暮れは、それが逆転し、オミクロンということもあり、1割5分ぐらい、その前の年からすると2022年の年末と2023年の年始については売上が落ちているというのが現状である。

質問2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

タクシードライバーの場合は歩合制を取っており、その歩合が最低賃金に満たない場合に最低賃金をクリアする金額を支払うことになるが、乗務員が減っておりなおかつ会社を閉鎖するところも出ている関係で、お客さんも減っているが対応するところももっと減っていることで、結果的に会社全体はそうでもないが1人当たりの売上は上がるという形で問題のない給料になっているが、全体的には非常に厳しい。ただ、内勤についてはこのところずっとコロナ禍で上げていなかったために、今年の春には大変でも5%ぐらいは上げて多分今までと同じぐらいの給料という形になると思うが、5%ぐらいはと検討している。

質問3 2023年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

弊社は既にインボイス制度の登録はしている。下請け、仕入れ先となる燃料関係は大きな会社のため当然インボイスに登録すると思うが、板金屋といったところが登録しなかった場合にどうするかは不安な状況である。

質問 4 2022 年秋から水際対策緩和が行われましたが、インバウンド(訪日旅行)需要に変化はありましたか。

インバウンドの絡みは、小山は観光で外国からお客様が来るということがほとんどないので、全く影響はないが、栃木県内の観光地として日光や那須ではかなり戻ってきてよくはなっているという情報を聞いている。ただ、まだ団体の移動は少なく、観光地に行っても大型バスがとまっていることはほとんどまだ見受けられず、人の動きは自家用であったり、レンタカーを借りて動いたりというパターンで、4~5 人とか 3 人のような形での旅行が多い。弊社も中型、小型バスで 5 台しか動かしていないが、去年の秋以降、ぽつぽつと動き出しているが、なかなか月に何回程度でほとんどないに等しいという状況である。

質問 5 全国旅行支援が 2023 年 1 月からはじまりましたが、どのような影響がありますか。過去の旅行支援制度との比較を含め教えてください。

前回 12 月までの全国支援、各県でやっていたものは紙クーポンだったため、出張で来られた方がホテルに泊まれて、そこでクーポンをもらってタクシーでクーポンを使って払ってというのが大体月 100 枚ぐらい、10 万円ぐらいあったが、今年になって 1 月以降は電子クーポンに変わってしまい、なおかつ 3 月ぐらいまでしかやらないということで、タクシーの場合は各車両で電子クーポンに対応できる機械を載せると赤字になってしまうため、タクシー関係で栃木県内ではおそらくどこもやっていないと思う。紙クーポンであれば、登録さえすれば請求を起こせたが、現在は電子クーポンであるため、今はやっていないというのが現状である。

通信・放送業(情報システム開発)

質問 1 新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022 年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2023 年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2 年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

2022 年の景気状況はコロナ禍の影響が極めて大きく、大きかったという過去形ではなく、現在進行形で厳しい状況が続いている。これはお客さんとの接触が限られているため、営業あるいは開発、実務共に生産性がぐっと落ちてきてしまっている。あるいは仕入れが納期どおりというよりも物自体が入ってこないということもあり、コロナ禍の始まった 2020 年と比較すると一昨年が 3%ほど売上ダウン、去年の場合は 2020 年比で 2%ほど、去年は一昨年に比べたら若干アップという横ばい停滞がずっと続いている。年間 5%ぐらいは最低でも上げていきたい、そうしないと身が持たないというところだが実態はそうはいかないというのが正直なところである。

2023 年の見通しについては、今 DX(デジタルトランスフォーメーション)とかデジタル化とか、そういう流れもあり売上拡大につなげたいが、ウクライナ問題に物価高、あるいは賃上げ要求、あるいは円安といった要因があり、一気に 2023 年を景気拡大できる年にはなかなか難しいというところが正直なところである。

年末年始については、一般消費者の動きは改善されつつあるように受けとめているが、BtoBの仕事では全く枠外という感じである。

質問 2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

賃金アップというのは大歓迎だが、特に中小企業にあつては業績アップ、売上拡大あるいは売上価格への転嫁といったところが大前提となっており、原資がないというところでは実際にはできず、できる範囲で対応させていただきたいと思っている。社員にもできるだけ多く手当していきたいと考えている。

質問 3 2023年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

インボイス制度導入の影響は制度導入に伴って業界ではシステムの改変、改造要求あるいは追加とかといった若干の仕事量アップというのが見込まれるが、これは一部分に限定された範囲で弊社としての影響は全くないぐらいという受け止め方をしている。

質問 4 貴社から見て小山地域のDX(デジタルトランスフォーメーション)の進行状況について教えてください。他の地域との比較を含め教えてください。

小山地域へのDXの進行状況は、本来のDXというより現在の業務の生産性、効率アップにデジタル化を進めているというのが大方の実情ではないかと思う。従来路線の延長でコンピュータあるいはパソコン、あるいはそのような類の機器を使っていくということが実態だと認識している。これは製品やサービスの高付加価値化、あるいは新たなビジネスモデルの創出、変革といったところまで目を向けながら出発点に立ったという状況であると思う。

小山だけ他の地域に遅れを取っているとは思わないが、地域というよりも企業規模、あるいは業界によって差別化がどんどん進んでいくのではないかと、このようなことが今後どんどん進んでいくように考えている。

金融・保険業

質問 1 新新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2023年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

外部環境の悪化を要因としたマイナスの影響が大きく、当店売上げに対し間接的な影響を受けたと思う。

2023年も同様に推移していくものと思われるが、国内新型コロナウイルスの扱いが「5類」に引き下げられ、国民のマインドが引き上げられれば景気上昇に繋がる要因と思うが、日本銀行総裁の交代に伴う金融政策の変更、衆議院選挙があたえる影響を注視する必要があると思う。

年末年始は特段変化なし。

質問 2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

業界としては、メガバンクで新卒者の賃上げ予定実施あり。当行は未定である。

質問 3 2023 年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

取引先でインボイス制度の導入を実施していない企業や未対応企業も多数あるのが現状である。未対応企業が今後も既存取引継続ができるかは不透明。当行としてもインボイス制度のセミナー案内をしているが、関心が薄いと感じている。又、インボイス未対応企業との取引を打ち切る予定はないが、対応については未定である。

質問 4 コロナ禍で売上げが減った企業に対しての実質無利子・無担保融資(ゼロゼロ融資)の状況について教えてください。

ゼロゼロ金融の返済が 5 月以降順次開始となる。融資を利用した企業は相当数あり、企業が確実に返済履行できるか注視している。コロナで売上が減少し、コロナ前までの水準に回復していない企業については、更なる資金繰りの支援、売上増加策の検討を行う等の伴走支援が求められている。

業績好調な企業、資金繰り良好な企業は利子補給終了前に繰上げ返済を検討している。

質問 5 アメリカ、ヨーロッパで利上げが続く、日銀も政策転換が見込まれるなど、最近の金融政策が地方経済に与える影響を教えてください。

多方面に影響を与える事象と考えている。急激な金利上昇となれば、企業は資金調達に慎重となる事、設備投資を控える等のマイナス影響が懸念される。又、住宅ローン金利に与える影響が懸念される。住宅ローン利用者の約7割は変動金利型を利用しているが、短期金利上昇となると各家庭の負担が増加し、消費に悪影響を及ぼす懸念があるので注視している。

流通業(小売業)

質問 1 新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022 年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2023 年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2 年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

2022 年の売上げ状況は前年比 105%である。売上、来場者数共に昨年度と比べて変化なしであった。小山市内の飲食店のコロナからの脱却は難しく、今後の見通しも厳しいと思う。飲食店卸は約 15%減である。年明けの初市は人手が 2022 年より 1.3 倍程度になったと思う。

質問 2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

現状のビジネスで収益の大幅な改善は難しいと思う。都内向けに出荷予定であったクラフトビールは見込みの半分以下であった。クラフトビールは現状売上で現状維持である。そのため、農業と就労支援の会社を本格的に始める。主に長ネギを 2 町弱栽培し、市場に出し、施設や飲食店に卸している。餅米もつくり自社で揚げ餅おかきも製造している。製造工程には就労支援利用者に入ってもらっている。利益は出ないが人員不足は多少解消できると思う。人件費を減らし、従業員の賃金 UP に回している。3%のベースアップをする。

質問 3 2023 年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

インボイス登録をしているため、特に変わりはないように感じる。ただし、仕入れ先の農家は対象外の方が多いので、仕入れから税金分を差し引いていく予定である。

質問 4 2022 年秋から水際対策緩和が行われましたが、インバウンド(訪日旅行)需要に変化はありましたか。

インバウンドは全くない。

質問 5 全国旅行支援が 2023 年 1 月からはじまりましたが、どのような影響がありますか。過去の旅行支援制度との比較を含め教えてください。

旅行支援クーポン利用は以前から月 1 万円程度で影響なし。

不動産・住宅業

質問 1 新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022 年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および 2023 年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2 年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

年末年始の動きは例年と変わりはない。住宅ローン返済が困難な方、資産整理(空地、空き家)を理由にした売却が増えた。

質問 2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

従業員と家族の幸せをモットーとした経営計画書を作成し動いている。

質問 3 2023 年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

下請業者の選定を注視している。

質問 4 小山地域の住宅建設(持ち家、分譲、貸家)の状況について教えてください。特に、木材不足(ウッドショック)の状況について教えてください。

- ・ リフォーム部材の高騰により、請負金額が上がった。
- ・ 中古住宅を求めるお客様が増えた。

ホテル・旅館業

質問 1 新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2023年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

年末年始は、行動制限の緩和により宿泊客が昨年よりも大幅に増え、コロナ前の水準に戻った。今後も企業活動や、スポーツ関係の団体による宿泊利用が見込まれている。
会食や宴会の催事は、業種により自粛される場合もあるが、例年より年末開始の利用は、増加に転じた。今後は、5月8日のコロナ感染症5類への変更により、徐々に会食や宴会の催事の増加が見込まれている。

質問 2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

新年度に向け(4月以降)社員の給与改定の準備をしている。パート従業員については、契約改定時に個別に時給改定を進める。

質問 3 2023年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

インボイス制度導入に際して、ポスレジに追加設定を行いレシート等の適格請求書発行に対応する予定となっている。取引先に対しては、適格請求書発行事業者の確認を今後していくこととなるが、特に大きな投資や混乱はないものと思っている。

質問 4 2022年秋から水際対策緩和が行われましたが、インバウンド(訪日旅行)需要に変化はありましたか。

水際対策の緩和による需要の変化は特にはない。

質問 5 全国旅行支援が2023年1月からはじまりましたが、どのような影響がありますか。過去の旅行支援制度との比較を含め教えてください。

1月から全国旅行支援がはじまったが、過去の旅行支援と比較した場合は、宿泊利用者数で約半数程度の利用に留まっている。

通信・放送業

質問 1 新型コロナウイルス感染症の流行、物価の上昇、急速な円安の進行、ロシアのウクライナへの侵攻など最近の社会・経済状況を踏まえ、2022年の小山地域における貴社・貴店、貴業界の景気(売上等)の状況、および2023年の景気(売上等)の見通しを教えてください。特に、2年ぶりに行動制限がなかった年末年始の状況を教えてください。

2022年は半導体の流通が滞ったことにより、インターネット用宅内機器の調達が予定通り進まず、設置工事数が減少したため、予定の売上高に届かなかったが、増収増益で着地。

2023年は宅内機器の調達に問題はないため、インターネット加入者の増加を見込んでおり、増収の計画である。

質問 2 近年、最低賃金の上昇が続いていること、および物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関して、貴社・貴店、貴業界の取り組みについて教えてください。

前年度より昇給額をアップする方向で検討中。

質問 3 2023年にインボイス制度が導入されますが、インボイス制度が貴社・貴店、貴業界に与える影響について教えてください。

- ・ 顧客管理システムの一部カスタマイズを予定
- ・ 会計ソフトの更新を予定

質問 4 近年の広告に関する状況を教えてください。特にコロナ禍以前と比べた変化について教えてください。

コロナ禍以前と同様の状況に戻つつあるが、変わらず広告費は削減対象になり易い状況であるため、クライアントとの継続的な信頼関係構築が重要。

商工会議所

質問 1 商工会議所から見た小山地域の景気状況と見通し、及び地元企業の経営課題について教えてください。

商工会議所では四半期に一度、景気動向調査を行っている。また、市内の企業の経営相談を行っている経営指導員の5名がヒアリングをしている。質問に対してはこれらを元に回答する。

小山地域の景気状況と見通し、及び地元企業の経営課題については、新型コロナウイルス流行の第8波により感染拡大が懸念される中ではあったが、2年ぶりに行動制限がなくなり、クリスマスや年末需要の高まりから衣料品を初めとする季節商品の売上がやや回復している。また、製造業では原材料価格の高騰により同業種間でも景気感の方向性が分かれているという状況になった。依然として原材料価格の高騰が幅広い業種に及んでおり、なかなか中小・小売業者については価格の転嫁ができていないところである。ただ、統計を取ると約半数は価格転嫁ができていて、半数はできていないということで企業の利益が減少しているとみている。

飲食店においては原材料の高騰や光熱費の高騰で値上げせざるを得ない、特に採算が合わないメニューはやめてしまうというところもあった。長引くコロナの影響で飲食店については売上が減少しており、私どもが知る範囲の中でもあの店舗がというところが廃業することが見受けられた。仕入れ価格の情報はやや落ち着くと見込まれているが、この価格転嫁の遅れもあって、採算が悪化する小規模企業は今後も厳しい状況が続くのではないかと考えている。

一方、個人消費の回復によりサービス業ではやや人手不足になっている。特にようやく回復した飲食店業である。コロナ禍によりパート・アルバイトを減らして営業していたが、売上回復によってパート・アルバイトを募集しても一切来ないということで、予約を断った事例があると指導員から聞いている。また、年末の忘年会はコロナの拡大が懸念され 11 月後半から 12 月前半に忘年会が集中したところである。ただ、後半になると売上が失速し、好調なときと比べると 8 割程度という話を聞いている。

製造業では半導体供給の回復から設備投資の需要が高まっているが、今後緩やかながらも改善傾向で推移していくと考えている。

質問 2 インボイス制度に関して、商工会議所の取り組みを教えてください。

インボイス制度については当所では制度の周知及びセミナー等を開催している。特に 10 月 1 日の導入から発行事業者になるには事前の登録が必要なことから、これから行われる確定申告相談会、窓口で制度について丁寧に説明していきたいと思っている。特に、現在は消費税の免税事業者から、販売先からインボイス発行事業者になることを要請され私どもに相談するケースが徐々に増えている。免税事業者はインボイス制度導入後も免税事業者のままでいると販売先から取引を見直されたり、それによって売上が減少する可能性が多々あると思う。また、消費税の課税に免税事業者がなると、納税額が増えて利益が減少する傾向がある。インボイス制度導入を機に自社の経営を見直して利益を確保する方策を講じる必要が当所ではあると考えており、これからは専門家を交えた個別相談会を中心に支援を行っていききたいと思っている。

質問 3 実質無利子・無担保融資(ゼロゼロ融資)について、商工会議所の取り組みを教えてください。

新型コロナウイルス禍で影響を受けた企業を支えてきた公的支援の実質無利子・無担保融資のゼロゼロ融資は、今後据置期間が終了し、返済期間が本格化してくる。政府では負担額を減らすために新たな資金需要に対応する信用保証制度、コロナ借換保証を創設し、これについては 1 月 10 日から利用が開始されたところである。当所ではこの制度について 2 月の機関誌に告知をし、金融機関や保証協会と連携して支援を行いたいと思っている。

質問 4 質問 2.、3. 以外で、近年の経済問題についての商工会議所の取り組みについて教えてください。

当所管内では比較的創業意欲が高いところにある。ただ近年、中小企業の廃業が増えているのが現状である。廃業の理由は採算の悪化や事業主の高齢化による後継者不足が大きな要因になっている。中には事業を継続することはできるが、コロナの影響により事業意欲が低下して廃業する事業主もいると聞いている。対応策として、県の事業引継ぎ政策と、当所の職員が毎月 1 回帯同訪問してヒアリング調査を行っている。その中でやはり事業承継というのが非常に難しく、皆さん親族承継を望み、なか

なか従業員の第三者承継は非常に困難なのが現状である。当所ではこういったところを解消するために、1月27日に日本政策金融公庫宇都宮支店と事業承継に係る事業承継支援に関する覚書を締結した。この覚書の中では、後継者不足やコロナの影響に中小・小規模事業者の休業・廃業が進む中で事業承継に関する情報提供、資金支援、特に公庫については全国ネットを持っているので、そこを活用した事業を譲りたい、受けたいという人のマッチングを中心に相互に協力して、これから事業承継を進めていこうと今進めている。

一方、DXによる生産性向上が急務であり、特にインボイス制度並びに令和5年1月からスタートする電子帳簿保存法に対応した会計システムの導入が緊急の課題である。当所では国のIT補助金を活用してインボイス制度の登録と合わせて支援していきたいと思っている。

令和5年のプレミアム商品券については、令和4年までは紙で発行していたが、令和5年はスマホで決済できるデジタルプレミアム商品券を導入することを検討している。決済方法は利用者がスマホで見せるQRコードを読み取るMDM型決済方式を採用する予定である。現在、詳細について詰めており、10月からデジタルプレミアム商品券によって景気の回復を図っていききたいと思っている。プレミアム率は多分10%、市のほうの予算なので去年は30%という形になったが、今年はプレミアム10%、発行額も4,000万円になるというところで、私どもが懸念しているのは今まで30%の商品券が10%になって、果たして皆さん買うのかというのが非常に危惧するところで、小山市についても追加予算の中でぜひ30%で合わせて取り入れて景気の回復を図っていききたいと商工会議所としては思っている。

小笠原教授のコメント

お忙しい中を当研究所のヒアリングにお応えいただいた企業の皆様には大変感謝する。新型コロナウイルスの感染拡大が徐々に変化し、依然としてその脅威は存在するものの2022年度末には政府の判断も緩和に向かう中で地域的な動向も変化をしていることが今回のヒアリングでは伺えた。政府や行政機関による一連の施策や各業種での出口戦略も功を奏し徐々に回復する分野とともに状況が深刻な事例も伺うことができ、まだら模様の中で北関東の経済をどうしてゆくべきかという各企業・団体の苦悩がよく伝わってきた。

ロシアによるウクライナ侵攻に伴う経済の混乱特に資源の高騰も大きな要素であり、インフレの影響が大きいことも特徴である。加えて急激な円ドル為替相場の変動や制度の問題。半導体の供給不足など地域の企業に影響ある出来事が多かったことがわかる。企業活動におけるDXの導入についても様々な側面があり、推進による生産性改善やサービスの質的向上を図る一方でその導入方法で現場における混乱の指摘もあり、地域的に一面的に展開するだけでなく、そこに対応が難しい企業や市民の存在を意識して社会実装やその啓発を行うことも検討すべきであると痛感した。

一方で全国的な少子化や地域の高齢化が徐々に地域に影響を与えていることもコロナ禍前から続く重要な課題であり、今回のヒアリングからも地域経済の縮小のみならずインフラの維持管理や地域サービスの低下など地域社会の持続性に関わるものが予想され、これらについても自治体としての対応が必要である。人的資源の確保には人件費のアップや労働環境の改善も大切であるが、そこで無理に

若者を地域に縛り付けることなく、地域の未来を支える人材に選ばれるような社会デザインが必要となってくることも記しておく。

白鷗大学としても経営学部、ビジネス開発研究所として地方自治体や経済団体とともに支援できる課題やテーマがあれば是非とも協力をしてゆきたい。

5. まとめ

最近の日本経済の動きを GDP 速報(2022 年 10-12 月期・2 次速報(2023 年(令和 5 年)3 月 9 日公表))でみると、令和 4 年の実質 GDP 成長率(2015 年暦年連鎖価格)は前年比 1.0%増となった。日本経済の回復の停滞を示す結果であった。四半期別(季節調整済、前期比)でみると、令和 4 年 10~12 月は 0%となった。コロナ禍からの回復により、民間消費はプラスであったものの、物価高が消費の足を引っ張り、世界経済への減速懸念から、民間企業設備投資はマイナスとなった。2020 年から続くコロナ禍のもとで、全般的に社会、経済活動が正常化しつつあるものの、本格的な回復には至っていない。特に、物価については、消費者物価指数については 2022 年に入ってから、企業物価指数についてはその 1 年ほど前から、ともに高い水準で推移している(図表 5-1、5-2)。

こうした状況のなか令和 4 年 11 月から 12 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(令和 4 年度第 2 回)」の結果は、令和 2 年初頭から続く新型コロナウイルス感染症流行による影響は引き続きみられるものの、緩やかな回復傾向にあるといえるだろう。アンケート調査の DI でも、50%には至らないものの緩やかな回復傾向を見せている項目が多く見られた。近年の物価の上昇に関連して、価格転嫁や賃金上昇といった経営判断をどのように行うかが、目下の課題となるだろう。また、コロナ禍で一時顕在化されていなかった人手不足の問題が、社会、経済が正常化する中で、再び経営課題として浮上していると考えられる。

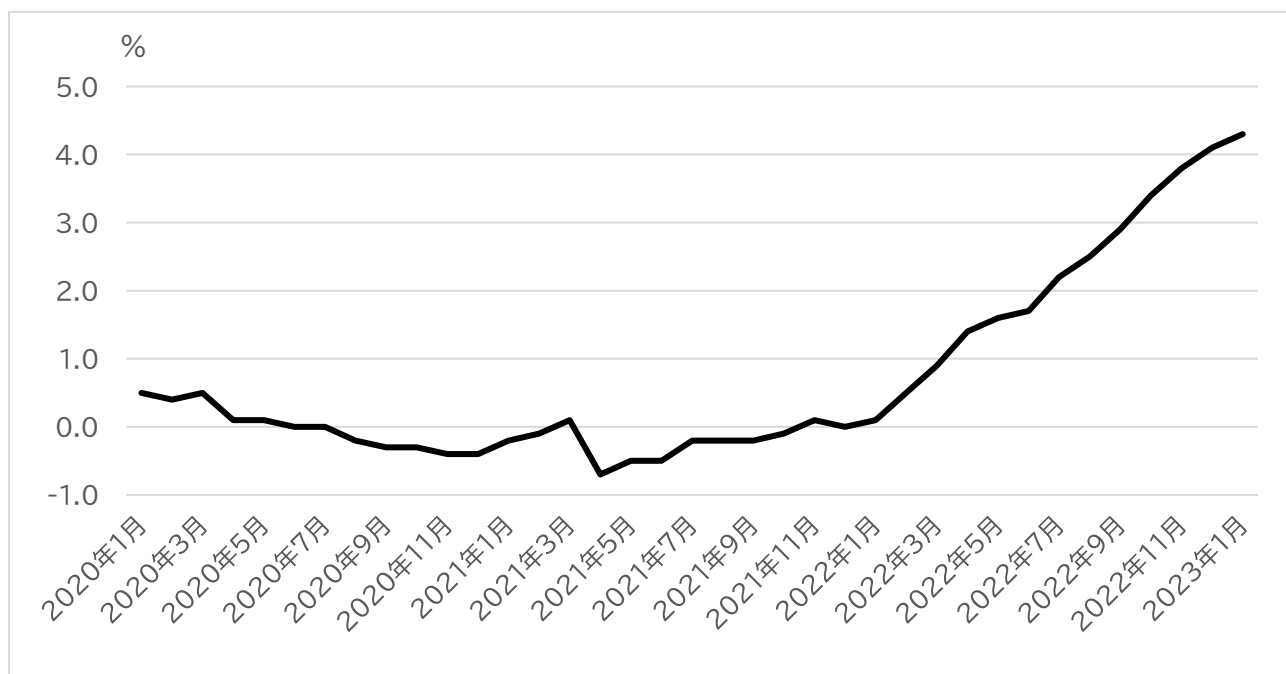
令和 5 年 2 月に実施したヒアリング調査では、景気の現状について、業種や企業・店舗により、「持ち直してきている」、「変わらず」、「売上減の経費増」、「厳しい状況が続いている」、「マイナスの影響が大きい」、「やや上昇」、「増収」と様々な声があった。その理由として、新型コロナウイルス感染症の流行による影響と物価の上昇が多く挙げられ、コロナ禍の影響については継続しているとする回答と収束に向かっているとの回答があった。先行きについては同様の理由で、「増収」、「戻ってくるのではと期待」、「変わらない」、「難しい」、「厳しい」と様々であった。回答には、価格転嫁を課題として挙げる声や、新型コロナウイルスの扱いが「5 類」に引き下げられることが景気上昇につながることを期待する声もあった。近年、物価上昇により賃金上昇の期待が高まっていることに関しては、多くの業種・企業が賃上げによる対応を検討している、とのことであった。

2023 年 5 月に新型コロナウイルスの感染法上の分類が「5 類」に引き下げられることから、2023 年の社会、経済が「アフターコロナ」を本格的に迎えることになるだろう。コロナ禍を起因として生じたサプライチェーンの混乱もより正常化に向かうことが期待される。一方で、令和 4 年 2 月から続く、ロシアのウクライナへの軍事侵攻はいまだ終結の気配を見せることはない。この戦争を起因とする、サプライチェーンの混乱や物価高は今後も継続することを見込まなければならないだろう。

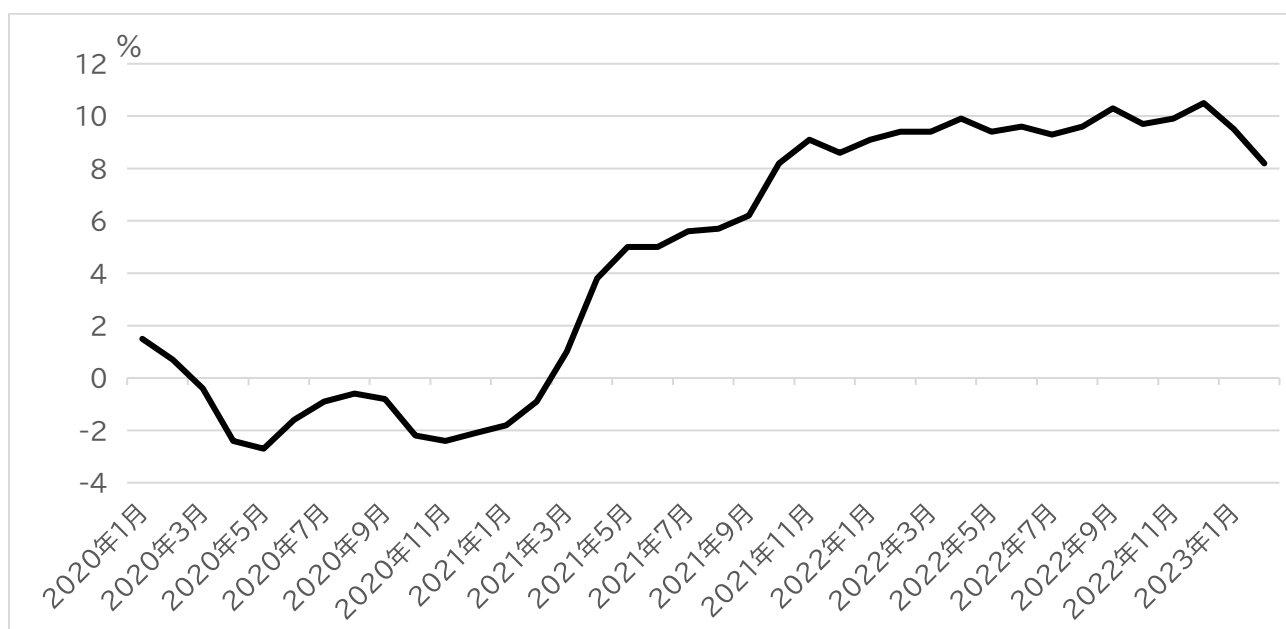
2023 年 3 月にはスタートアップ企業向け融資を行っていたアメリカのシリコンバレー銀行が経営破綻した。シリコンバレー銀行の破綻をきっかけに、他の銀行の経営状態も不安視され、国際的な金融システムに混乱が生じることが懸念されている。アメリカの中央銀行にあたる FRB(連邦準備制度理事会)や EU の中央銀行にあたる ECB(欧州中央銀行)をはじめとして、高い水準の物価上昇に直面している国や地域の中央銀行は、物価上昇を抑えるための金融引き締め政策を実施しており、継続的に利上げを行っている。物価の上昇を抑えるために利上げを行うことは銀行の経営に悪影響を与えることにもなりうるので、物価の抑制と金融システムの安定という二つの目標に対して、難しい舵取りを行わ

なければならぬ状況となっている。日本でも、2023年4月に、長らく金融緩和政策を主導してきた黒田東彦日銀総裁の任期を迎える。新しい日銀総裁のもとで、日本銀行の金融政策の動向を注視していく必要があるだろう。

図表 5-1 消費者物価指数(前年同月比、生鮮食品を除く、2020年=100)²



図表 5-2 企業物価指数(前年同月比、2020年=100)³



² 総務省ウェブページより筆者作成

³ 日本銀行ウェブページより筆者作成

(参考資料)

i. 小山市景気動向アンケート調査票(令和4年度第2回)

小山市景気動向アンケート調査 調査票 (令和4年度第2回)

[フェースシート]

小山市経済動向実態調査以外の目的には一切使用いたしませんので、下記の項目にご記入いただきますようお願い申し上げます。

1. 貴店(貴社)のお名前
2. 貴店(貴社)の主とする業種(小山市にある事業所(店舗)で取り扱っている業種)は何ですか。最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 流通業(小売業) ② 製造業 ③ 金融・保険業 ④ 運輸業 ⑤ ホテル・旅館業
⑥ 飲食業 ⑦ 通信・放送業 ⑧ 不動産・住宅業 ⑨ サービス業 ⑩ 印刷業
⑪ その他(具体的に: _____)
3. 貴店(貴社)の従業者数(パート・アルバイトを含む) (小山市の事業所(店舗)における従業者)

						人
--	--	--	--	--	--	---

4. 貴店(貴社)の年間売上げ (小山市の事業所(店舗)における売上げ(概数で結構です))

				億					万円
--	--	--	--	---	--	--	--	--	----

5. 貴店(貴社)の小山市の店舗 (事業所)における売上げのうち、小山市内の企業、消費者からの需要の割合はおよそどのくらいですか。一つ選んで○をつけてください。

- ①80~100% ②60~79% ③40~59% ④20~39% ⑤0~19%

6. 調査の回答に関する連絡先(社判等でも差支えございません)

ご担当者名:

ご住所:

電話番号:

E-mail:

(お忙しいところご協力ありがとうございます。次ページ以降の調査にご回答いただきました方には、次回調査時に今回の調査結果とともに、些少なながらクオカード(1000円)をお送りいたします。)

「小山市経済動向実態調査」

委託元 小山市経済部商業観光課

調査受託 白鷗大学ビジネス開発研究所

電話 : 0285-22-1111(大学・代表)

Fax : 0285-20-8157

E-mail: bijiken@ad.hakuoh.ac.jp

調査担当(西谷、高木、八尾、櫻庭)

〔質問項目〕

2022年11-12月現在の状況でお答え下さい。質問1から質問17(6ページ目)までご記入のほどよろしく
お願い申し上げます。

質問1 現在の小山市の景気についての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて **2022**
年下半期(7~12月期)の景気は良いと思いますか、悪いと思いますか。(水準)

- ① 良い ② やや良い ③ どちらともいえない ④ やや悪い ⑤ 悪い

質問2-1 質問1のご回答の理由として、どのような点に着目されましたか。もっとも適当と思われる
ものを一つ選んでください。「⑥それ以外」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 小山市の人出の状況 ② お客様や取引先の様子(購買態度など)
③ 物価の動き ④ 雇用の状況 ⑤ 周辺地域の様子
⑥ それ以外()

質問2-2 質問2-1の回答内容について具体的に説明してください。

質問3 小山市の景気の先行きについての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて、
2023年上半期(1~6月期)の景気は、**2022**年下半期(7~12月期)と比べて良くなると思いますか、
悪くなると思いますか。(将来の方向)

- ① 良くなる ② やや良くなる ③ 変わらない ④ やや悪くなる ⑤ 悪くなる

質問4 質問3でそのように回答した理由を教えてください。

質問5 貴店(貴社)の売上げ等からみて、貴業界の小山市における2022年下半期(7~12月期)の需
要は季節的な要因を除いて、2022年上半期(1~6月期)にくらべて売上金額で増加したと思いますか。

- ① 増加した ② やや増加した ③ 変わらない ④ やや減少した ⑤ 減少した

質問6-1 質問5でそのように回答された理由として、もっとも適当と思われるものを一つ選んでく
ださい。

(家計消費向け取引(B to C)の場合)

- ① 来客数の動き ② 販売量の動き ③ 客単価の動き ④ 販売価格の動き
⑤ お客様の様子 ⑥ 競争相手の様子 ⑦ それ以外()

(企業向け取引(B to B)の場合)

- ①受注量や販売量の動き ② 受注価格や販売価格の動き ③ 取引先の様子
④ 競争相手の様子 ⑤ それ以外 ()

質問 6-2 質問 6-1 の回答内容について具体的に説明してください。

質問 7 貴店(貴社)の売上げの動き等からみて、貴業界の小山市における 2023 年上半期 (1~6 月期) の売上高 (生産高) の見通しをお伺いします。2022 年下半期 (7~12 月期) と比べて、季節的要因を除いて、2023 年上半期 (1~6 月期) の売上高 (生産高) は増加すると思いますか。(売上高の先行き)

- ① 増加する ② やや増加する ③ 変わらない ④ やや減少する ⑤ 減少する

質問 8 質問 7 でそのように回答した理由を教えてください。

質問 9 貴店(貴社)の販売価格の動き等からみて、貴業界の小山市における 2023 年上半期 (1~6 月期) の販売価格の見通しをお伺いします。2022 年下半期 (7~12 月期) と比べて、2023 年上半期 (1~6 月期) の販売価格はどうなると思いますか。(価格見通し)

- ① 上昇する ② やや上昇する ③ 変わらない ④ やや低下する ⑤ 低下する

質問 10 貴店(貴社)の雇用 (従業員) の状況等からみて、貴業界の小山市における 2023 年上半期 (1~6 月期) の雇用状況の見通しをお伺いします。2022 年下半期 (7~12 月期) と比べて、2023 年上半期 (1~6 月期) の雇用状況はどうなると思いますか。(雇用見通し)

従業員が

- ① 不足する ② やや不足する ③ 横ばい ④ やや過剰となる ⑤ 過剰となる

質問 11 貴店 (貴社) あるいは貴業界における資金繰りの状況をお伺いします。貴店 (貴社) の 2022 年下半期 (7~12 月期) における資金繰りは、2022 年上半期 (1~6 月期) にくらべて改善しましたか、悪化しましたか。

- ① 改善した ② やや改善した ③ どちらともいえない ④ やや悪化した ⑤ 悪化した

質問 12 質問 11 でそのように回答した理由をあげてください。(あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可)

- ① 売上高の変化 ② 設備資金需要の変化 ③ 仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化
- ④ 人件費の変化 ⑤ 金融機関の貸出態度の変化 ⑥ 金融政策、金利の変化
- ⑦ その他(具体的に: _____)

質問 13 貴店(貴社)における 2022 年度の主な従業員の賃金等の状況をお伺いします。(あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可)

- ① ベースアップを実施 ② ボーナスの実施 ③ 定期昇給を実施 ④ ボーナスの増額
- ⑤ ボーナス以外の手当の増額 ⑥ 定期給与・ボーナス等の変更なし ⑦ 定期給与の引下げ
- ⑧ ボーナスの減額 ⑨ ボーナス以外の手当の減額 ⑩ その他(_____)

質問 14 質問 13 でそのように回答した具体的内容・理由を記入してください。

質問 15 新型コロナウイルス感染症の流行(コロナ禍)に関して、2022 年下半期(7~12 月期)には貴社(貴店)、貴業界はどのような影響を受けましたか。質問 15-1~3 に回答してください。

(あてはまるものすべてに○をつけてください、複数回答可)

質問 15-1 供給面への影響

- ① コロナ禍前に比べ一部商品の仕入が困難なままだ ② 商品の仕入の状況はコロナ禍前に戻った
- ③ コロナ禍前に比べ原材料・部品の入手が困難なままだ
- ④ 原材料・部品の入手の状況はコロナ禍前に戻った ⑤ コロナ禍前に比べ供給能力が増加した
- ⑥ 供給能力はコロナ禍前の状況に回復した ⑦ 供給能力はコロナ禍前の状況に戻っていない
- ⑧ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑨ その他(具体的に: _____)

質問 15-2 営業・勤務形態等への影響

- ① コロナ禍前に比べ営業時間の短縮・変更等を余儀なくされたままだ
- ② コロナ禍前の営業時間に戻った ③ コロナ禍前に比べ従業員の勤務に困難が生じたままだ
- ④ 従業員の勤務についてコロナ禍前の状態に戻った
- ⑤ コロナ禍をきっかけにテレワーク等新たな勤務形態を採用し続けている
- ⑥ 勤務形態はコロナ禍前のものに戻った ⑦ コロナ禍前と比べキャッシュレス決済の導入が進んだ
- ⑧ コロナ禍前と比べ業態転換が進んだ ⑨ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
- ⑩ その他(具体的に: _____)

質問 15-3 需要への影響

- ① コロナ禍前に比べ需要全体が減少した ② コロナ禍前に比べ一部商品の需要が減少した
③ 全体的にコロナ禍前の状況に需要がほぼ回復した ④ コロナ禍前に比べ一部商品の需要が増加した
⑤ コロナ禍前に比べ需要が全体的に回復した ⑥ もともとコロナ禍の影響はほとんどない
⑦ その他(具体的に: _____)

質問 16 質問 15 でそのように回答した具体的内容・理由を記入して下さい。

質問 17 2022 年秋に実施された、いちご一会とちぎ国体(第 77 回国民体育大会、10 月 1-11 日)および、いちご一会とちぎ大会(第 22 回障害者スポーツ大会、10 月 29-31 日)についてお尋ねします。

質問 17-1 大会期間中およびその前後の期間の売上げは、例年の同じ期間と比べて増加しましたか。

- ① 増加した ② やや増加した ③ 変わらない ④ やや減少した ⑤ 減少した

質問 17-2 質問 17-1 でそのように回答された理由として、もっとも適切と思われるものを一つ選んでください。

(家計消費向け取引(B to C)の場合)

- ① 来客数の動き ② 販売量の動き ③ 客単価の動き ④ 販売価格の動き
⑤ お客様の様子 ⑥ 競争相手の様子 ⑦ それ以外 (_____)

(企業向け取引(B to B)の場合)

- ① 受注量や販売量の動き ② 受注価格や販売価格の動き ③ 取引先の様子
④ 競争相手の様子 ⑤ それ以外 (_____)

質問 17-3 質問 17-2 の回答内容について具体的に説明してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ii. 小山市景気動向アンケート調査(令和4年度第2回)の回答一覧

選択回答 質問1~10

No.	質問1	質問 2-1	質問 3	質問 5	質問 6-1 (BtoC)	質問 6-1 (BtoB)	質問 7	質問 9	質問 10
1	2	4	4	2	-	1	3	3	3
2	3	3	3	3	5	3	3	3	3
3	2	2	4	2	3	-	4	3	3
4	2	2	2	2	2	1	3	1	3
5	3	1	3	3	1	2	3	3	1
6	3	1	3	3	1	1	3	2	2
7	3	2	2	2	1	1	2	2	2
8	1	2	3	2	2	3	4	2	2
9	2	2	2	2	1	1	2	2	2
10	4	2	3	4	5	1	3	4	3
11	3	2	4	4	-	1	3	4	3
12	2	5	2	3	7	5	3	3	2
13	3	2	3	3	-	1	3	3	3
14	2	2	2	2	5	2	2	3	3
15	3	3	3	2	1	-	2	2	2
16	4	2, 4, 5	3	2	1, 5	3	3	3	2
17	5	2	3	5	-	1	5	2	3, 4
18	3	2	4	4	-	1	4	4	3
19	4	2, 3	4	4	5	3	4	4	3
20	5	2	3	5	1	1	3	3	3
21	4	2	5	4	4	-	2	2	1
22	3	4, 6	3	3	1	3	3	3	2
23	3	3	2	3	5	-	3	3	2
24	3	3	3	3	5	3	3	3	3
25	3	1	4	3	5	3	4	3	3
26	4	2	4	4	1, 2, 5	3, 4	4	2	3
27	3	3	4	3	-	2	2	3	3
28	3	2	3	3	2	2	3	2	3
29	4	2	3	3	2	1	3	3	1
30	4	2	4	2	2	-	2	3	3
31	4	2	3	3	1	-	2	2	3

32	2	4	3	4	-	5	4	3	3
33	2	2	2	4	1	1	2	1	1

選択回答 質問 11~15

No.	質問 11	質問 12	質問 13	質問 15-1	質問 15-2	質問 15-3	質問 17-1	質問 17-2 (B to C)	質問 17-2 (B to B)
1	2	1, 3	3, 4	4	9	6	3	-	5
2	3	1	2, 3	6	9	3	3	5	3
3	2	7	10	1, 6	2, 4	3	3	5	-
4	5	3, 4	5	3	9	5	3	-	3
5	4	3	10	3	3, 5	1	2	1	2
6	3	3	1	1	6	1	3	-	-
7	2	2	1, 2	3	1, 3	1	1	1, 3	1, 2
8	2	1	2, 3	1	9	6	3	1	1
9	3	1	2	1	3	1	3	1	1
10	4	3	6	3, 7	9	1	3	-	-
11	3	1, 3, 4	1, 2	2, 6	4	6	3	5	3
12	2	1	10	8	9	6	3	-	5
13	3	1, 4	2, 3	1, 3	3	2	3	-	1
14	3	7	10	2	2	1	3	2	3
15	4	1, 3, 4	2, 3	3	2, 7	2, 4	2	1, 2, 3	-
16	3	1	1, 2, 3	7	1	1	3	1, 5	3
17	4	1, 3	1, 2	2	5	2	3	-	-
18	3	5	6	1	6	1	3	-	3
19	3	-	3	8	2	1	3	7	5
20	4	1, 3, 4	1	8	1	1	3	4	1
21	3	7	2, 3	8	6	6	3	7	5
22	3	1, 3, 4	1	3	2	1	3	1	3
23	3	1, 3, 4	6	9	1	1	3	5	-
24	3	1	6	6	2	5	3	5	-
25	4	1, 3	6	2	4	2	3	1	3
26	4	1, 3	-	7	1	1	3	2	3
27	3	1, 3, 4	2, 3	8	5, 10	6	3	-	5
28	2	1	6	1	9	6	3	2	1
29	3	1, 3	2	7	7	1	1	1	1
30	3	3	1, 2, 3, 4	1	3	6	2	5	-
31	3	3	10	7	9, 10	7	3	1	-
32	4	3	6	1, 3	3	6	3	-	1
33	2	1, 7	2, 4	8	9	1	3	-	1

記述回答 質問 1、2

No	質問1	質問 2-1	質問 2-1 ⑥の回答	質問 2-2
1	2	4		正社員や派遣社員を募集しているが、なかなか集まらない。
2	3	3		
3	2	2		セールとかの影響もあるし、年末で財布の中身も多くなっている。
4	2	2		運搬する品物(機械材料など)が増えた
5	3	1		乗客の動きの波が大きい
6	3	1		来場者数
7	3	2		忘年会などの宴会予約の状況が昨年と同じく伸び悩んでいる。
8	1	2		例年より取引件数が多かった
9	2	2		
10	4	2		お客様の動きが悪い
11	3	2		
12	2	5		中古車・建機関係の動きから
13	3	2		コロナ禍やウクライナの状況
14	2	2		スポーツ大会 etc が少々多くなってきている。
15	3	3		コロナ回復で人出増の一方で、インフレ拡大による生活防衛意識拡大
16	4	2, 4, 5		
17	5	2		顧客先の引き合いや動き、仕事の見通しが悪い
18	3	2		
19	4	2, 3		設備投資の話が少ない
20	5	2		人出が少ない
21	4	2		来店数が少ない為
22	3	4, 6	コロナ	人不足
23	3	3		円安、原油高、生活に関わるあらゆる物の価格高騰によるため 新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるため
24	3	3		
25	3	1		人出が少し戻ってきていると感じたため
26	4	2		
27	3	3		新型コロナウイルスがインフルエンザの様に日常化され、人出も増えつつあるが、物価高が続いているため。
28	3	2		

29	4	2		物価の高騰による購買力の低下
30	4	2		利用料の見直し(削減)に関する問い合わせの増加
31	4	2		衣料、住関ののびが悪い。気温のせいもある。
32	2	4		中途採用求人において、人の動きがあまり感じられなかった。
33	2	2		仕事の依頼が増えた。(前年比で 110%くらい)

記述回答 質問 3、4

No	質問 3	質問 4
1	4	エネルギーコスト(主に電気)が増大した。
2	3	
3	4	お手入れの価格の引き上げにより多少減るかも
4	2	コロナ対策の強化が見込めるから
5	3	コロナ禍が続いていく
6	3	
7	2	コロナ感染者が減少するものと予想している。
8	3	
9	2	
10	3	
11	4	物価高騰
12	2	
13	3	
14	2	コロナの状況が少し良くなってきている。
15	3	同上
16	3	
17	3	良くなる情報や要因が見あたらない
18	4	
19	4	物価高、人手不足、内需の減少
20	3	コロナ感染が長引き、購買意欲が上がらない
21	5	物価の上昇が続くのではないかと思います。それに伴い、車両販売の伸び悩みなどが懸念されるため。
22	3	物価高など
23	2	多少なりともよくなる。新型コロナ感染症による行動制限の緩和
24	3	
25	4	増税の話が出てきている為
26	4	
27	4	物価高が続いていくと考えられる。
28	3	
29	3	ロシアによるウクライナ侵攻の長期化による物価の高騰が続く
30	4	・物価高。 ・日銀の実質的な利上げ
31	3	コロナの第 8 派で影響でる

32	3	小山市周辺は自動車関連が多く、景気は現状、悪くないと思うが、製造業における部品調達難が続くため、良くはならないが横ばい。
33	2	

記述回答 質問 5、6-1(BtoC)

番号	質問 5	質問 6-1 (BtoC)	質問 6-1(BtoC) ⑦の回答
1	2	-	
2	3	5	
3	2	3	
4	2	2	
5	3	1	
6	3	1	
7	2	1	
8	2	2	
9	2	1	
10	4	5	
11	4	-	
12	3	7	小山市売買がないから
13	3	-	
14	2	5	
15	2	1	
16	2	1, 5	
17	5	-	
18	4	-	
19	4	5	
20	5	1	
21	4	4	
22	3	1	
23	3	5	
24	3	5	
25	3	5	
26	4	1, 2, 5	
27	3	-	

28	3	2	
29	3	2	
30	2	2	
31	3	1	
32	4	-	
33	4	1	

記述回答 6-1(BtoB)、6-2

No	質問 6-1 (BtoB)	質問 6-1(BtoB) ⑤の回答	質問 6-2
1	1		製品出荷量が増加した
2	3		
3	-		セールにより年末客単価が上がる
4	1		トラックにおいて空車回送が減少した
5	2		国体の売上げがなければ減少か
6	1		
7	1		とちぎ国体の来客を得た
8	3		
9	1		
10	1		物価が高騰したことにより、受注も減少している
11	1		・受注案件の減 ・結論までに時間がかかる
12	5	小山市売買がないから	わからない
13	1		
14	2		レクリエーションの行事によるグループでの販売増加
15			コロナ回復
16	3		
17	1		具体的な見積もりや物件情報が少なく受注量も少ない
18	1		
19	3		・慎重な対応が多い ・資金繰りが厳しい ・積極的な動きが少ない
20	1		土、日の来客数が減っている
21	-		中古車の価格が高騰しており、車を乗り換える方より、修理して乗り続ける方が多くなってきている為。
22	3		物価高
23	-		自社製品の価格改定を実施し、販売価格を上げたため、お客様の購入する数の減少が顕著になったため。
24	3		
25	3		お客様が固定されている為

26	3, 4		
27	2		受注量はやや増加傾向にあるが、鋼材等の諸資材、原油価格が高騰しているため。
28	2		
29	1		コロナによるテレワーク等の増加により、駅利用者の減少・リモート会議による出張者の減少。 急激な円安による物価の高騰の為の買え控え。
30	-		営業人員を増やした
31	-		季節的な要因をのぞけば売上は変わらない。
32	5		業界的に部品調達が難しくなっている。エンジン、モーター、コントローラー等、中国ロックダウン後の生産遅延、価格高騰。
33	1		売上金額を比較すると10%くらい(平均9%)上半期と下半期の比較で増加していることが分かる。

記述回答 質問 7、8

No	質問 7	質問 8
1	3	契約量があまり変わっていない。
2	3	
3	4	お手入れ代値上げにより多少の影響が出るかも
4	3	大手取引先のスケジュールがわからないため
5	3	売上がリモートかが進んで下降する
6	3	
7	2	コロナ感染者が減少し、飲食の需要が増える。
8	4	
9	2	
10	3	
11	3	
12	3	わからない
13	3	
14	2	期待をしております。景気が少しは良くなること。
15	2	同上
16	3	
17	5	同上です
18	4	
19	4	先行きが不透明
20	3	コロナに慣れてきているとは言え、身近に感染者が増え、なかなか不安はなくなるならない。
21	2	1～3月は繁忙期の為、2022年(7～12月)よりは、売上が見込めるため。
22	3	物価高の対応による来客減少
23	3	現時点ではわからない。
24	3	改善する要因がない
25	4	増税の話で、消費者が減るため
26	4	
27	2	受注量、生産量の増加が見込まれるため
28	3	
29	3	コロナ感染や物価高騰がすぐには収まらない。
30	2	半導体不足による機器の納入に若干の目途がついたため
31	2	物価の高騰が多少なりともおさまるのではないか。コロナも収まるのではないか。
32	4	質問 6-2 と同じ

33	2	仕事をするドライバーの数は増えていないので、受けられる仕事の数が限界に来ている。よって、売上もこれ以上は伸びづらいと思われる。
----	---	---

記述回答 質問 11、12

No	質問 11	質問 12	質問 12 ⑦の回答
1	2	1, 3	
2	3	1	
3	2	7	金融機関の好意にて
4	5	3, 4	
5	4	3	
6	3	3	
7	2	2	
8	2	1	
9	3	1	
10	4	3	
11	3	1, 3, 4	
12	2	1	
13	3	1, 4	
14	3	7	資金繰りの心配はありません
15	4	1, 3, 4	
16	3	1	
17	4	1, 3	
18	3	5	
19	3	-	
20	4	1, 3, 4	
21	3	7	特に変化がなかったため
22	3	1, 3, 4	
23	3	1, 3, 4	
24	3	1	
25	4	1, 3	
26	4	1, 3	
27	3	1, 3, 4	
28	2	1	
29	3	1, 3	
30	3	3	
31	3	3	
32	4	3	
33	2	1, 7	保険解約による一時金

記述回答 質問 13、14

No	質問 13	質問 13 ⑩の回答	質問 14
1	3, 4		利益が少し上がったため、ボーナスが増額した。
2	2, 3		
3	10	最低賃金の引上げにて	上に同じ
4	5		不景気で賞与は見込めないため。 残業代などを多く支払維持させている。
5	10		最低賃金の 10 月上昇に上昇行動をした
6	1		2%
7	1, 2		雇用の維持
8	2, 3		
9	2		
10	6		
11	1, 2		前期売上目標値をクリアした
12	10		平成3年の賃金構造基本統計調査の製造業、中小企業がリンクさせた
13	2, 3		
14	10	外注力の増加が多くなっている。	贈答品の多忙の際はアルバイトに作業していただいています。
15	2, 3		
16	1, 2, 3		
17	1, 2		雇用維持
18	6		
19	3		・現状で変化なし ・ボーナスは不明
20	1		最低賃金の売上に伴い、ベースアップした
21	2, 3		社員に対し、利益の分配を約束している。 社員が長く働ける企業を目指している為。
22	1		人材確保の為
23	6		
24	6		
25	6		毎回ぎりぎりです何とかしています。
26			
27	2, 3		利益の一部を従業員へ還元、士気向上、賃上げ 3%目標実施
28	6		
29	2		物価が上昇している為

30	1, 2, 3, 4		増収増益のため
31	10,	賞与は業績で変動する	社員は資格制、賞与は業績、パートタイマーは最賃をわらない時給。
32	6		会社業績は厳しいが、人材流出を防ぐため、昨年同水準を維持。
33	2, 4		ベースアップをするには売上げが良くないので厳しい。

記述回答 質問 15

No	質問 15-1	質問 15-1 ⑨の回答	質問 15-2	質問 15-2 ⑩の回答	質問 15-3
1	4		9		6
2	6		9		3
3	1, 6		2, 4		3
4	3		9		5
5	3		3, 5		1
6	1		6		1
7	3		1, 3		1
8	1		9		6
9	1		3		1
10	3, 7		9		1
11	2, 6		4		6
12	8		9		6
13	1, 3		3		2
14	2		2		1
15	3		2, 7	2は一部店舗を除く	2, 4
16	7		1		1
17	2		5		2
18	1		6		1
19	8		2		1
20	8		1		1
21	8		6		6
22	3		2		1
23	9	コロナ禍の影響を受け、販売自粛(出張販売、イベント出店減少)をした。	1		1
24	6		2		5
25	2		4		2
26	7		1		1
27	8		5, 10	事務職はテレワーク実施可能ではあるが、工場内現業は生産に関わるため、クラスターに	6

				よる操業停止の恐れはある。	
28	1		9		6
29	7		7		1
30	1		3		6
31	7		9, 10	従業員がコロナにかかれば、それだけ補充があるあわけではないので苦しい。	7
32	1, 3		3		6
33	8		9		1

記述回答 質問 16

No	質問 16
1	建築・土木工事に関してはほとんど影響がなく、通常に動いていた。
2	
3	店内予約等から
4	大型フロアライト設備関連の仕事が増加した。
5	乗客の減少かが進んでいる
6	飲食店の注文の減少
7	大人数での宴会が戻らない。業務出張が減少し宿泊客が減少している。スポーツ団体の合宿がコロナにより減少している。
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	行事が少なくなっている
15	外出需要の増⇔インフレ拡大(今後はこちらが大きくなると想定)
16	
17	
18	海上運賃の高止まり
19	コロナ融資終了により運転資金需要の減少
20	人の出が少ない
21	一時的にお客様の来店が減少したが、現在はコロナ前と変わらない程度に戻っている。
22	来客数の減少
23	コロナ禍の影響はかなり大きい。自主的に販売制限して、感染拡大防止を最優先させているため。
24	
25	法事など人の集まる機会が減ったため
26	
27	感染防止対策のため
28	
29	新型コロナウイルスの感染力が強く、従業員の感染者が多く出て勤務に支障をきたした。
30	サービスの特性上
31	まだ影響はある。

32	当社の主要製品が農業機械の為
33	経費の削減と言う面から、仕事量が減ってきている。

記述回答 質問 17

No	質問 17-1	質問 17-2 (B to C)	質問 17-2 (B to C) ⑦の回答	質問 17-2 (B to B)	質問 17-2 (B to B) ⑤の回答	質問 17-3
1	3	-		5	まったく関係性のない業種のため	前の記述通り
2	3	5		3		
3	3	5		-		
4	3	-		3		団体に関連した業務を行わなかった。
5	2	1		2		とちぎ国体の売上分が少々のびた。その分、他のお客様に問題が生じた。
6	3	-		-		
7	1	1, 3		1, 2		とちぎ国体の宿泊者は1泊2食@16500と高単価であったため。売上、客単価が伸びた。
8	3	1		1		
9	3	1		1		
10	3	-		-		
11	3	5		3		国体への関心が少なかったと思います。
12	3	-		5	変化がない為	
13	3	-		1		国体開催は当初から関係なし
14	3	2		3		企業向けに変化はありません。
15	2	1, 2, 3		-		せんしゅ関係者の来店、利用増
16	3	1, 5		3		
17	3	-		-		
18	3	-		3		
19	3	7		5		特に関係なし
20	3	4		1		

21	3	7	影響がなかった為	5	影響がなかった為	特にございません。
22	3	1		3		来客数
23	3	5		-		大会による人の動きが弊社にとってみられなく、相乗効果はなかった。
24	3	5		-		
25	3	1		3		まったく影響なかった。
26	3	2		3		
27	3	-		5	該当なし	弊社には特に関りが少ないため
28	3	2		1		
29	1	1		1		選手の送迎
30	2	5		-		大会に係る業務の受注と、大会期間中のテレビ CM 放送契約
31	3	1		-		
32	3	-	質問 16 と同じ	1		質問 16 と同じ
33	3	-	物流と言う意味では特に変化はなかったように思う。	1		物流と言う意味では特に変化はなかったように思う。

iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)

質問 1 小山市の景気の現状(水準)

				良い	やや良い	どちらとも いけない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回	令和	4年	7~12月	3.0	24.2	42.4	24.2	6.1	0.0	48.5
前回		4年	1~6月	5.3	10.5	52.6	18.4	13.2	0.0	44.1
前々回		3年	7~12月	0.0	12.8	41.0	28.2	17.9	0.0	37.2
第38回		3年	1~6月	0.0	8.7	19.6	60.9	10.9	0.0	31.5
第37回		2年	7~12月	0.0	9.1	13.6	43.2	34.1	0.0	24.4
第36回		2年	1~6月	0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
第35回		元年	7~12月	0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5
第34回		元年	1~6月	2.2	10.9	47.8	37.0	0.0	2.2	44.5
第33回	平成	30年	7~12月	2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0.0	51.6
第32回		30年	1~6月	0.0	31.6	55.3	10.5	0.0	2.6	55.4
第31回		29年	7~12月	0.0	32.6	58.1	4.7	4.7	0.0	54.7
第30回		29年	1~6月	0.0	17.0	59.6	19.1	4.3	0.0	47.3
第29回		28年	7~12月	0.0	14.6	47.9	31.3	6.3	0.0	42.7
第28回		28年	1~6月	0.0	9.3	64.8	20.4	5.6	0.0	44.5
第27回		27年	7~12月	0.0	21.7	56.5	21.7	0.0	0.0	50.0
第26回		27年	1~6月	0.0	22.4	49.0	20.4	8.2	0.0	46.4
第25回		26年	7~12月	0.0	10.9	50.0	32.6	6.5	0.0	42.7
第24回		26年	1~6月	2.0	16.0	54.0	16.0	8.0	4.0	46.9
第23回		25年	7~12月	2.0	28.6	49.0	16.3	4.1	0.0	52.0
第22回		25年	1~6月	0.0	18.5	48.1	31.5	1.9	0.0	45.8
第21回		24年	7~12月	0.0	4.1	44.9	34.7	16.3	0.0	34.2
第20回		24年	1~6月	0.0	14.6	29.2	43.7	12.5	0.0	36.7
第19回		23年	7~12月	1.8	9.2	25.5	45.5	18.0	0.0	32.8
第18回		23年	1~6月	0.0	1.9	15.4	50.0	30.8	1.9	22.0
第17回		22年	7~12月	0.0	6.7	33.3	40.0	20.0	0.0	31.7
第16回		22年	1~6月	0.0	10.4	27.1	39.6	22.9	0.0	31.3
第15回		21年	7~12月	0.0	2.1	4.2	41.7	52.0	0.0	14.1
第14回		21年	1~6月	0.0	1.8	1.8	38.6	57.8	0.0	11.9
第13回		20年	7~12月	0.0	0.0	4.3	36.2	59.5	0.0	11.2
第12回		20年	1~6月	0.0	2.2	13.3	66.7	17.8	0.0	25.0
第11回		19年	7~12月	0.0	0.0	38.3	53.2	8.5	0.0	32.5

第10回	19年	1~6月	0.0	23.1	45.2	27.9	3.8	0.0	46.9
第9回	18年	7~12月	0.0	20.8	35.4	33.3	10.5	0.0	41.6
第8回	18年	1~6月	0.0	25.5	53.2	14.9	6.4	0.0	49.5
第7回	17年	7~12月	0.0	28.9	44.4	22.2	4.5	0.0	49.4
第6回	17年	1~6月	0.0	14.6	29.3	51.0	5.1	0.0	38.4
第5回	16年	7~12月	0.0	12.5	27.5	42.5	17.5	0.0	33.8
第4回	16年	1~6月	0.0	16.7	38.1	33.3	11.9	0.0	39.9
第3回	15年	7~12月	0.0	12.0	18.0	40.0	30.0	0.0	28.0
第2回	15年	1~6月	1.6	0.0	16.4	44.3	37.7	0.0	20.9
初回	14年	7~12月	0.0	1.2	7.4	37.0	54.4	0.0	13.9

質問3 小山市の景気の先行き(来半期見通し)

見通し対象時期				良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回	令和	5年	1~6月	0.0	21.2	48.5	27.3	3.0	0.0	47.0
前回		4年	7~12月	2.6	15.8	55.3	21.1	5.3	0.0	47.4
前々回		4年	1~6月	5.1	53.8	28.2	7.7	2.6	2.6	63.2
第38回		3年	7~12月	2.2	43.5	39.1	13.0	2.2	0.0	57.6
第37回		3年	1~6月	0.0	13.6	38.6	34.1	13.6	0.0	38.1
第36回		2年	7~12月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
第35回		2年	1~6月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6
第34回		元年	7~12月	2.2	10.9	54.3	28.3	2.2	2.2	45.6
第33回	平成	元年	1~6月	0.0	31.1	57.8	11.1	0.0	0.0	55.0
第32回		30年	7~12月	2.6	15.8	68.4	13.2	0.0	0.0	52.0
第31回		30年	1~6月	0.0	39.5	53.5	7.0	0.0	0.0	58.1
第30回		29年	7~12月	0.0	19.1	63.8	14.9	2.1	0.0	50.0
第29回		29年	1~6月	0.0	24.5	61.2	12.2	2.0	0.0	52.0
第28回		28年	7~12月	1.9	11.1	53.7	29.6	3.7	0.0	44.5
第27回		28年	1~6月	0.0	21.7	60.9	17.4	0.0	0.0	51.1
第26回		27年	7~12月	0.0	30.6	55.1	12.3	2.0	0.0	53.6
第25回		27年	1~6月	0.0	26.1	45.7	21.7	4.3	2.2	48.9
第24回		26年	7~12月	0.0	24.0	46.0	26.0	4.0	0.0	47.5
第23回		26年	1~6月	4.1	28.6	42.9	22.4	2.0	0.0	52.6
第22回		25年	7~12月	1.9	37.0	50.0	7.4	3.7	0.0	56.5
第21回		25年	1~6月	2.0	36.7	42.9	14.3	4.1	0.0	54.6
第20回		24年	7~12月	0.0	20.8	43.8	27.1	8.3	0.0	44.3
第19回		24年	1~6月	0.0	16.4	47.3	27.3	7.3	1.7	43.6
第18回		23年	7~12月	3.8	21.2	38.5	23.1	13.4	0.0	44.7
第17回		23年	1~6月	0.0	6.7	64.4	24.4	4.5	0.0	43.3
第16回		22年	7~12月	2.1	29.2	52.1	6.3	8.3	2.0	52.7
第15回		22年	1~6月	0.0	8.3	37.5	33.3	20.9	0.0	33.3
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	36.8	27.2	14.9	1.8	40.9
第13回		21年	1~6月	0.0	0.0	10.6	12.8	74.5	2.1	8.7
第12回		20年	7~12月	0.0	2.2	13.3	68.9	15.6	0.0	25.5
第11回		20年	1~6月	0.0	8.5	42.6	42.6	4.3	2.0	39.1
第10回		19年	7~12月	1.9	19.2	58.7	20.2	0.0	0.0	50.7
第9回		19年	1~6月	2.1	25.0	58.3	10.4	4.2	0.0	52.6
第8回		18年	7~12月	0.0	31.9	51.1	17.0	0.0	0.0	53.7

第7回	18年	1~6月	2.2	51.1	40.0	6.7	0.0	0.0	62.2
第6回	17年	7~12月	0.0	17.1	48.8	26.8	7.3	0.0	43.9
第5回	17年	1~6月	0.0	9.8	41.5	43.9	4.8	0.0	39.1
第4回	16年	7~12月	0.0	33.3	50.0	11.1	5.6	0.0	52.8
第3回	16年	1~6月	0.0	18.0	32.0	34.0	16.0	0.0	38.0
第2回	15年	7~12月	1.6	3.3	47.5	32.8	14.8	0.0	36.0
初回	15年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 5 業界の小山市における売上（売上金額の増減）

				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和	4年	7~12月	0.0	30.3	39.4	24.2	6.1	0.0	48.5
前回		4年	1~6月	7.9	15.8	39.5	28.9	5.3	2.6	48.0
前々回		3年	7~12月	0.0	23.1	43.6	20.5	10.3	2.6	45.4
第38回		3年	1~6月	0.0	23.9	37.0	30.4	8.7	0.0	44.0
第37回		2年	7~12月	0.0	20.5	31.8	22.7	22.7	2.3	37.8
第36回		2年	1~6月	2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
第35回		元年	7~12月	0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3
第34回		元年	1~6月	4.3	15.2	39.1	30.4	8.7	2.2	43.8
第33回	平成	30年	7~12月	4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6
第32回		30年	1~6月	0.0	23.7	50.0	23.7	2.6	0.0	48.7
第31回		29年	7~12月	2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0.0	51.2
第30回		29年	1~6月	2.1	14.9	55.3	25.5	2.1	0.0	47.3
第29回		28年	7~12月	0.0	10.2	59.2	28.6	2.0	0.0	45.4
第28回		28年	1~6月	0.0	20.4	44.4	24.1	11.1	0.0	44.5
第27回		27年	7~12月	0.0	23.9	50.0	21.7	4.3	0.0	49.4
第26回		27年	1~6月	2.0	16.3	47.0	26.5	6.1	2.0	45.4
第25回		26年	7~12月	2.2	10.9	47.8	32.6	6.5	0.0	43.3
第24回		26年	1~6月	2.0	22.0	30.0	30.0	14.0	2.0	41.8
第23回		25年	7~12月	8.2	30.6	36.7	16.3	8.2	0.0	53.6
第22回		25年	1~6月	1.9	18.5	37.0	37.0	3.7	1.9	44.4
第21回		24年	7~12月	0.0	10.2	36.7	30.6	20.4	2.1	34.3
第20回		24年	1~6月	2.1	20.8	33.3	29.2	14.6	0.0	42.4
第19回		23年	7~12月	7.3	27.3	18.2	29.1	16.3	1.8	45.0
第18回		23年	1~6月	0.0	3.8	17.3	46.2	30.8	1.9	23.5
第17回		22年	7~12月	4.4	20.0	42.2	24.4	9.0	0.0	46.6
第16回		22年	1~6月	2.1	20.8	33.3	27.1	14.6	2.1	42.0
第15回		21年	7~12月	2.1	4.2	29.2	39.6	24.9	0.0	29.8
第14回		21年	1~6月	1.8	3.5	10.5	49.1	33.3	1.8	22.4
第13回		20年	7~12月	0.0	0.0	14.9	42.6	38.2	4.3	18.9
第12回		20年	1~6月	0.0	6.7	26.7	46.7	19.9	0.0	30.1
第11回		19年	7~12月	0.0	6.4	40.4	40.4	12.8	0.0	35.1
第10回		19年	1~6月	1.9	17.3	36.5	36.5	3.9	3.9	43.9
第9回		18年	7~12月	4.2	18.8	41.7	25.0	8.2	2.1	46.4
第8回		18年	1~6月	0.0	34.0	46.8	14.9	4.3	0.0	52.6

第7回	17年	7~12月	2.2	40.0	28.9	20.0	6.7	2.2	52.8
第6回	17年	1~6月	0.0	19.5	31.7	41.5	7.3	0.0	41.5
第5回	16年	7~12月	2.5	15.0	35.0	30.0	17.5	0.0	38.8
第4回	16年	1~6月	2.8	19.4	30.6	38.9	8.3	0.0	42.4
第3回	15年	7~12月	4.0	14.0	28.0	38.0	14.0	2.0	38.8
第2回	15年	1~6月	3.4	11.9	30.5	39.0	15.3	0.0	37.3
初回	14年	7~12月	2.5	8.6	21.0	28.4	37.0	2.5	27.2

質問 7 業界の小山市の売上高見通し(来半期の見通し)

見通し対象時期				増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	令和	5年	1~6月	0.0	27.3	48.5	21.2	3.0	0.0	50.0
前回		4年	7~12月	2.6	21.1	50.0	15.8	7.9	2.6	48.6
前々回		4年	1~6月	2.6	43.6	35.9	15.4	2.6	0.0	57.1
第38回		3年	7~12月	0.0	34.8	43.5	15.2	4.3	2.2	52.8
第37回		3年	1~6月	0.0	15.9	36.4	29.5	15.9	2.3	38.4
第36回		2年	7~12月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
第35回		2年	1~6月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7
第34回		元年	7~12月	2.2	21.7	38.0	29.3	4.3	4.3	46.8
第33回		元年	1~6月	2.2	24.4	57.8	15.6	0.0	0.0	53.3
第32回	平成	30年	7~12月	5.3	15.8	63.2	15.8	0.0	0.0	52.7
第31回		30年	1~6月	0.0	30.2	53.5	14.0	2.3	0.0	52.9
第30回		29年	7~12月	0.0	10.6	66.0	19.1	4.3	0.0	45.7
第29回		29年	1~6月	0.0	18.4	61.2	18.4	2.0	0.0	49.0
第28回		28年	7~12月	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6	0.0	50.0
第27回		28年	1~6月	0.0	17.4	50.0	28.3	2.2	0.0	45.1
第26回		27年	7~12月	0.0	18.4	55.1	24.5	2.0	0.0	47.5
第25回		27年	1~6月	0.0	23.9	43.5	23.9	6.5	2.2	47.4
第24回		26年	7~12月	2.0	18.0	44.0	28.0	6.0	2.0	45.4
第23回		26年	1~6月	2.0	26.5	44.9	16.3	10.2	0.0	48.4
第22回		25年	7~12月	1.9	33.3	48.1	9.3	5.5	1.9	54.3
第21回		25年	1~6月	2.0	32.7	34.7	18.4	10.2	2.0	49.5
第20回		24年	7~12月	0.0	16.7	39.6	27.1	14.5	2.1	39.9
第19回		24年	1~6月	0.0	18.2	50.9	23.6	7.3	0.0	45.0
第18回		23年	7~12月	3.8	13.5	40.4	28.8	11.6	1.9	42.1
第17回		23年	1~6月	4.4	15.6	57.8	17.8	4.4	0.0	49.5
第16回		22年	7~12月	0.0	27.1	47.9	10.4	10.4	4.2	48.9
第15回		22年	1~6月	0.0	10.4	39.6	31.3	18.7	0.0	35.4
第14回		21年	7~12月	1.8	17.5	31.6	35.1	12.2	1.8	40.2
第13回		21年	1~6月	0.0	2.1	14.9	19.1	59.6	4.3	14.4
第12回		20年	7~12月	0.0	4.4	24.4	53.3	17.9	0.0	28.8
第11回		20年	1~6月	0.0	10.6	44.7	38.3	6.4	0.0	39.9
第10回		19年	7~12月	1.9	23.1	57.7	13.5	0.0	3.8	53.5
第9回		19年	1~6月	2.1	29.2	39.6	16.7	6.2	6.2	51.2
第8回		18年	7~12月	2.1	21.3	59.6	10.6	4.3	2.1	51.6

第7回	18年	1~6月	0.0	35.6	42.2	13.3	4.5	4.4	53.5
第6回	17年	7~12月	0.0	22.0	51.2	26.8	0.0	0.0	48.8
第5回	17年	1~6月	2.5	17.5	27.5	40.0	10.0	2.5	40.4
第4回	16年	7~12月	0.0	19.4	58.3	13.9	2.8	5.6	50.0
第3回	16年	1~6月	2.0	18.0	34.0	30.0	12.0	4.0	41.7
第2回	15年	7~12月	0.0	10.0	43.3	31.7	15.0	0.0	37.1
初回	15年	1~6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 9 来半期の販売価格見通し

見通し対象時期				上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回	令和	5年	1~6月	6.1	30.3	51.5	12.1	0.0	0.0	57.6
前回		4年	7~12月	10.5	31.6	39.5	13.2	2.6	2.6	58.8
前々回		4年	1~6月	2.6	38.5	48.7	7.7	0.0	2.6	59.2
第38回		3年	7~12月	4.3	15.2	58.7	15.2	4.3	2.2	50.0
第37回		3年	1~6月	2.3	6.8	59.1	22.7	6.8	2.3	43.6
第36回		2年	7~12月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
第35回		2年	1~6月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3
第34回		元年	7~12月	2.2	17.4	52.2	23.9	0.0	4.3	49.5
第33回		元年	1~6月	0.0	13.3	71.1	13.3	13.3	0.0	48.9
第32回	平成	30年	7~12月	0.0	10.5	73.7	13.2	0.0	2.6	49.3
第31回		30年	1~6月	0.0	18.6	69.8	11.6	0.0	0.0	51.8
第30回		29年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1~6月	0.0	21.3	61.7	10.6	2.1	4.3	51.7
第28回		28年	7~12月	0.0	9.3	64.8	18.5	3.7	3.7	45.7
第27回		28年	1~6月	2.2	13.0	63.0	19.6	2.2	0.0	48.4
第26回		27年	7~12月	0.0	18.4	65.3	14.3	0.0	2.0	51.0
第25回		27年	1~6月	0.0	22.9	58.3	12.5	4.2	2.1	50.5
第24回		26年	7~12月	2.0	20.0	62.0	12.0	2.0	2.0	52.0
第23回		26年	1~6月	4.1	22.4	47.0	20.4	4.1	2.0	50.5
第22回		25年	7~12月	0.0	25.9	51.9	14.8	1.8	5.6	52.0
第21回		25年	1~6月	2.0	16.3	51.0	22.5	4.1	4.1	46.3
第20回		24年	7~12月	0.0	10.4	47.9	35.4	6.3	0.0	40.6
第19回		24年	1~6月	0.0	9.1	50.9	30.9	5.5	3.6	41.5
第18回		23年	7~12月	0.0	7.7	46.2	36.5	5.8	3.8	39.5
第17回		23年	1~6月	0.0	11.1	51.1	35.6	2.2	0.0	42.8
第16回		22年	7~12月	0.0	12.5	54.2	31.3	2.0	0.0	44.3
第15回		22年	1~6月	0.0	4.2	39.6	41.7	14.5	0.0	33.4
第14回		21年	7~12月	1.8	10.5	43.9	29.8	10.5	3.5	40.5
第13回		21年	1~6月	0.0	4.3	23.4	40.4	29.8	2.1	25.6
第12回		20年	7~12月	4.4	17.8	25.6	43.3	6.7	2.2	41.4
第11回		20年	1~6月	2.1	16.0	43.6	29.8	4.2	4.3	45.3
第10回		19年	7~12月	1.9	17.3	50.0	26.9	2.0	1.9	47.5
第9回		19年	1~6月	2.1	18.8	54.2	16.7	4.1	4.1	49.6
第8回		18年	7~12月	0.0	25.5	46.8	21.3	2.1	4.3	50.0

第7回	18年	1~6月	0.0	26.7	46.7	20.0	4.4	2.2	49.5
第6回	17年	7~12月	0.0	14.6	48.8	29.3	0.0	7.3	46.0
第5回	17年	1~6月	0.0	8.1	45.9	40.5	5.5	0.0	39.2
第4回	16年	7~12月	0.0	8.3	61.1	22.2	5.6	2.8	43.5
第3回	16年	1~6月	0.0	12.0	38.0	40.0	6.0	4.0	38.8
第2回	15年	7~12月	0.0	8.6	32.8	48.3	10.3	0.0	34.9

(注) 販売価格見直しは第2回から実施

質問 10 来半期の雇用見通し

見通し対象時期				不足する	やや不足	横ばい	やや過剰	過剰	無回答	DI
今回	令和	5年	1~6月	12.1	27.3	57.6	0.0	0.0	3.0	63.3
前回		4年	7~12月	7.9	18.4	65.8	2.6	0.0	5.3	58.3
前々回		4年	1~6月	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0	0.0	57.7
第38回		3年	7~12月	2.2	15.2	67.4	8.7	2.2	4.3	51.7
第37回		3年	1~6月	2.3	13.6	63.6	11.4	4.5	4.5	49.4
第36回		2年	7~12月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
第35回		2年	1~6月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4
第34回		元年	7~12月	4.3	23.9	63.0	4.3	0.0	4.3	57.3
第33回		元年	1~6月	13.3	35.6	46.7	0.0	2.2	2.2	64.8
第32回	平成	30年	7~12月	2.6	21.1	65.8	7.9	0.0	2.6	54.7
第31回		30年	1~6月	7.0	30.2	60.5	2.3	0.0	0.0	60.5
第30回		29年	7~12月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第29回		29年	1~6月	10.6	34.0	53.2	2.1	0.0	0.0	65.7
第28回		28年	7~12月	3.7	18.5	70.4	1.9	1.9	3.7	55.3
第27回		28年	1~6月	0.0	26.2	64.3	7.1	2.4	0.0	53.6
第26回		27年	7~12月	6.1	22.5	65.3	4.1	0.0	2.0	57.8
第25回		27年	1~6月	8.3	33.3	54.2	2.1	2.1	0.0	62.3
第24回		26年	7~12月	0.0	28.6	67.4	2.0	2.0	0.0	55.7
第23回		26年	1~6月	2.0	26.5	59.2	8.2	0.0	4.1	55.8
第22回		25年	7~12月	0.0	11.1	77.8	7.4	0.0	3.7	51.0
第21回		25年	1~6月	0.0	14.3	67.3	14.3	2.1	2.0	48.9
第20回		24年	7~12月	0.0	6.3	62.5	20.8	6.3	4.1	43.0
第19回		24年	1~6月	1.8	18.2	63.6	9.1	1.8	5.5	52.4
第18回		23年	7~12月	0.0	9.6	61.5	23.1	2.0	3.8	45.5
第17回		23年	1~6月	0.0	6.7	64.4	26.7	2.2	0.0	43.9
第16回		22年	7~12月	2.1	8.3	66.7	12.5	6.2	4.2	46.8
第15回		22年	1~6月	2.1	2.1	54.2	35.4	4.1	2.1	40.5
第14回		21年	7~12月	0.0	7.0	56.1	24.6	3.5	8.8	43.3
第13回		21年	1~6月	4.3	2.1	34.0	36.2	14.9	8.5	34.9
第12回		20年	7~12月	0.0	11.1	80.0	8.9	0.0	0.0	50.6
第11回		20年	1~6月	2.1	17.0	70.2	6.4	0.0	4.3	53.9
第10回		19年	7~12月	3.8	26.9	63.5	1.9	0.0	3.9	58.4
第9回		19年	1~6月	8.3	22.9	52.1	8.3	0.0	8.4	58.5
第8回		18年	7~12月	2.1	21.3	53.2	14.9	2.1	6.4	51.7

第7回	18年	1~6月	0.0	13.3	73.3	6.7	2.3	4.4	50.5
第6回	17年	7~12月	0.0	22.0	61.0	9.8	0.0	7.2	53.3
第5回	17年	1~6月	5.0	5.0	65.0	20.0	2.5	2.5	47.4
第4回	16年	7~12月	0.0	16.7	72.2	8.3	2.8	0.0	50.7
第3回	16年	1~6月	0.0	8.0	56.0	30.0	4.0	2.0	42.3
第2回	15年	7~12月	0.0	8.8	57.9	28.1	5.2	0.0	42.6

(注) 雇用見通しは第2回から実施

質問 11 資金繰りの状況(前半期との比較)

				改善した	やや改善	どちらとも いえない	やや悪化	悪化した	無回答	DI
今回	令和	4年	7~12月	0.0	21.2	51.5	24.2	3.0	0.0	47.7
前回		4年	1~6月	5.3	10.5	50.0	23.7	10.5	0.0	44.1
前々回		3年	7~12月	2.6	30.8	46.2	15.4	5.1	0.0	52.6
第38回		3年	1~6月	2.2	19.6	56.5	15.2	6.5	0.0	48.9
第37回		2年	7~12月	0.0	18.2	52.3	18.2	9.1	2.3	45.3
第36回		2年	1~6月	8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
第35回		元年	7~12月	2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0
第34回		元年	1~6月	6.5	8.7	69.6	13.0	0.0	2.2	52.2
第33回	平成	30年	7~12月	2.2	24.4	62.2	11.1	0.0	0.0	54.4
第32回		30年	1~6月	2.6	15.8	68.4	10.5	0.0	2.6	52.6
第31回		29年	7~12月	4.7	14.0	62.8	18.6	0.0	0.0	51.3
第30回		29年	1~6月	4.3	17.0	70.2	8.5	0.0	0.0	54.3
第29回		28年	7~12月	2.1	17.0	68.1	12.8	0.0	0.0	53.1
第28回		28年	1~6月	7.4	9.3	61.1	18.5	1.9	1.9	50.5
第27回		27年	7~12月	4.3	10.9	69.6	13.0	2.0	2.2	51.7
第26回		27年	1~6月	2.0	6.2	71.4	16.4	2.0	2.0	47.4
第25回		26年	7~12月	2.1	10.4	64.6	20.8	0.0	2.1	48.4
第24回		26年	1~6月	4.0	20.0	56.0	18.0	2.0	0.0	51.5
第23回		25年	7~12月	4.1	16.3	59.2	18.4	0.0	2.0	51.6
第22回		25年	1~6月	3.7	22.2	51.9	18.5	0.0	3.7	52.9
第21回		24年	7~12月	6.1	16.3	53.1	14.3	8.2	2.0	49.4
第20回		24年	1~6月	2.1	18.8	58.3	8.3	8.3	4.2	49.5
第19回		23年	7~12月	9.1	7.3	50.0	20.9	7.2	5.5	47.4
第18回		23年	1~6月	0.0	9.6	48.1	26.9	11.6	3.8	39.5
第17回		22年	7~12月	0.0	17.8	55.6	15.6	8.8	2.2	46.1
第16回		22年	1~6月	4.2	8.3	54.2	27.1	6.2	0.0	44.3
第15回		21年	7~12月	2.1	4.2	62.5	16.7	14.5	0.0	40.7
第14回		21年	1~6月	3.5	10.5	33.3	36.8	10.6	5.3	39.3
第13回		20年	7~12月	2.1	6.4	44.7	34.0	12.8	0.0	37.8
第12回		20年	1~6月	0.0	13.3	48.9	35.6	2.2	0.0	0.0
第11回		19年	7~12月	4.3	8.5	46.8	27.7	6.3	6.4	43.8
第10回		19年	1~6月	3.8	17.3	53.8	21.2	0.0	3.9	50.9
第9回		18年	7~12月	6.3	16.7	54.2	12.5	6.1	4.2	51.2
第8回		18年	1~6月	0.0	21.3	59.6	12.8	2.0	4.3	51.2

(注) 資金繰りの状況は第 8 回から実施